

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	四天王寺大学
設置者名	学校法人四天王寺学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部等 共通 科目	専門 科目	合計		
文学部	日本学科	夜・通信	8	2	4	14	13	
	国際コミュニケーション学科	夜・通信			4	14	13	
社会学部	社会学科	夜・通信			4	14	13	
	人間福祉学科	夜・通信			4	14	13	
人文社会学部	日本学科	夜・通信			4	14	13	
	国際キャリア学科	夜・通信			4	14	13	
	社会学科	夜・通信			4	14	13	
	人間福祉学科	夜・通信			4	14	13	
教育学部	教育学科	夜・通信		0	6	14	13	
経営学部	経営学科	夜・通信		0	6	14	13	
看護学部	看護学科	夜・通信		2	4	14	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

公式HPにて公表： https://www.shitennoji.ac.jp/about/disclosure/kouhyou/

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	四天王寺大学
設置者名	学校法人四天王寺学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

HPにて公表 https://www.shitennoji.ac.jp/about/disclosure/kifukoui/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	(株)日経サービス 代表取締役 会長	2025.6.6～ 令和11年度 に開催する 決算及び事 業の実績を 報告する評 議員会の終 結の時まで	経営知識に優れた高 度な立場からの法人 経営に関する助言を 行う
非常勤	うめだ速見法律事務所 弁護士	2025.6.6～ 令和11年度 に開催する 決算及び事 業の実績を 報告する評 議員会の終 結の時まで	①コンプライアンス や経営方針、業務ル ールの遵守のための 助言を行う。 ②リスクマネジメン トに関する助言を行 う
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	四天王寺大学
設置者名	学校法人四天王寺学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 授業計画(シラバス)作成にあたり、『シラバス作成ガイドライン』を全教員に配布している。そのガイドラインに基づき、授業概要、到達目標、授業計画、目標達成のための授業方法・履修上の注意事項、授業時間外に必要な学習、成績評価の方法などを明記したシラバス作成を行うよう教員に依頼している。 シラバス作成後には、担当教員以外の第三者による組織的なシラバスチェックのため、ファカルティ・ディベロップメント(FD)委員によるシラバスの内容チェックを行い、教育の質保証に取り組んでいる。 作成及び公表時期については、2月に授業計画(シラバス)を作成し、3月にはFD委員によるシラバスチェックを行い、修正後3月末に公表を行っている。	
授業計画書の公表方法	公式ホームページにて公表 https://ibunet.shitennoji.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp (ゲストユーザーにて閲覧可)
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 (授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 成績評価については、「四天王寺大学履修規程」(令和7年度入学生)「四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部単位の修得及び試験に関する規程」(令和6年度以前入学生)に規定している。また、成績評価方法や成績評価基準を、履修要覧に掲載し学生に明示している。 シラバスには、到達目標に対する達成度を評価する方法・基準を記載し、厳格な成績評価により、適正に単位の授与を行っている。 また、成績評価基準の平準化を目指し、学期末に成績評価状況を確認している。これに加えて、学科間で相互に成績評価が適切に行われているか等に関するピアレビューを実施している。	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)					
四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部GPA制度に関する規程」において、学期GPA及び累積GPAの算出方法を定め、履修要覧及び公式ホームページに掲載し、学生に明示している。					
また、学生や保護者が常時閲覧可能な学生ポータルサイト「IBU.net」に各学期のGPAと各年度のGPA、累積のGPAを含めた成績を掲載し、修学状況の把握と指導の目安に活用している。					
加えて、各学科における修得単位数の分布状況及び各学部におけるGPAの分布状況は、教務委員会で各学部・学科等の教員に周知し、学生指導に活用するとともに、公式ホームページにて公表し、学生自身も学修状況を把握できるようにしている。					
【GPAの算出方法について】					
評価	秀	優	良	可	不合格
G P	4	3	2	1	0
学期G P A＝（当該学期の履修登録科目のG P×当該科目の単位数）の合計 ／当該学期の履修登録総単位数					
累積G P A＝（在学全期間の履修登録科目のG P×当該科目の単位数）の合計／在学全期間の履修登録総単位数					
・認定科目や評価が未確定または保留の科目については、G P Aの算定対象外とする。					
・再試験、追試験または再受験が発生した場合、当該科目については再試験、追試験または再受験で得た成績評価をG P A算定対象とする。					
・再履修により単位を修得した授業科目については、再履修によって得た成績評価と単位数をG P A算定に算入するものとする。なお、当該科目について過去に得た成績評価および単位数はG P A算定から除外しない。					
客観的な指標の算出方法の公表方法		公式ホームページにて公表 https://www.shitennoji.ac.jp/about/disclosure/kouhyou/			
4．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。					
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)					
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)					
本学の「建学の精神」、「学園訓（本学の教育目的）」、教育の理念に基づき、大学全体及び学部・学科等において「卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」を定めている。さらに、ディプロマ・ポリシーに基づき「卒業時点において学生が身につけるべき能力」を身に着けた人材を育成するため、教養教育科目（令和7年度入学生）基礎教育科目・共通教育科目（令和6年度以前入学生）・専門教育科目の各科目を設置している。本学の教育方針を履修要覧、公式ホームページに掲載することで、学生が4年間を通して計画的に学ぶことができるよう取り組んでいる。					
また、学部・学科等で定められた卒業要件を、個々の学生が到達しているかを学部教授会で審議し、その結果を教育研究評議会で承認し、卒業を認定している。					
卒業の認定に関する方針の公表方法		公式ホームページにて公表 https://www.shitennoji.ac.jp/about/policy/			

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	四天王寺大学
設置者名	学校法人四天王寺学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	公式HPにて公表 https://www.shitennoji.ac.jp/about/disclosure/zaimu/
収支計算書又は損益計算書	公式HPにて公表 https://www.shitennoji.ac.jp/about/disclosure/zaimu/
財産目録	公式HPにて公表 https://www.shitennoji.ac.jp/about/disclosure/zaimu/
事業報告書	公式HPにて公表 https://www.shitennoji.ac.jp/about/disclosure/zaimu/
監事による監査報告(書)	公式HPにて公表 https://www.shitennoji.ac.jp/about/disclosure/zaimu/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 対象年度:)
公表方法:
中長期計画(名称: 四天王寺学園中長期計画 対象年度: H28年度～R7年度)
公表方法: 公式HPにて公表 https://www.shitennoji.ac.jp/about/mediumplan/

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 公式HPにて公表 https://www.shitennoji.ac.jp/about/disclosure/jiko/
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 公式HPにて公表 https://www.shitennoji.ac.jp/about/disclosure/jiko/
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部
教育研究上の目的（公表方法：ホームページにより公表 https://www.shitennoji.ac.jp/about/policy/ ）
（概要） 【文学部】 文学部は、建学の精神に基づき、人文学に対する知識や理解を深め、言語およびメディアによる確かな表現力・コミュニケーション力を身につけ、専門分野における課題を発見し、知見を応用して問題を解決する能力を培うことを目的とする。 【文学部日本学科】 文学部日本学科は、日本の言語・文化についての知識と教養、言語およびメディアによるコミュニケーション力を備え、主体的に課題を発見し解決する意欲を有し、多様な価値観に基づく調和的で豊かな人間性を育むことを目的とする。 【文学部国際コミュニケーション学科】 文学部国際コミュニケーション学科は、英語や英語圏の文化、中国語やアジア文化などを目的に応じて学び、言語およびメディアによって表現しながら、観光等の場面で異文化の人々と交流することで、実践的なコミュニケーション力や情報発信力、問題解決力を育むとともに、異文化を受容し他者を思いやる心を身につけることを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページにより公表 https://www.shitennoji.ac.jp/about/policy/ ）
（概要） 【文学部】 文学部では、卒業時点で以下の 3 点の資質・能力を身に付けたと認められる学生に対して「学士（文学）」の学位を授与する。 1) 知識・技能 言語・文化などの諸事象について、幅広い知識とともに、専門的な知識・技能を学んで理解を深め、それを応用することができる。 2) 思考力・判断力・表現力等 客観的に思考し判断する能力を身に付け、言語および多様なメディアを用いて、自らの思考や見解を表現し、他者とコミュニケーションを図ることができる。 3) 主体性、多様性、協働性 社会や文化の様々な事象に関心をもち、主体的な取り組みや他者とのコミュニケーションによって課題を発見・検討し、社会貢献に向けて改善・解決を図ることができる。 【文学部日本学科】 日本学科では、卒業時点で以下の 3 点の資質・能力を身に付けたと認められる学生に対して「学士（文学）」の学位を授与する。 1) 知識・技能 日本について、日本語・日本文学、国語教育・日本語教育、伝統文化・観光、現代文化（和食）という多彩な角度から知識・技能を修得し、応用できる。 2) 思考力・判断力・表現力等 確かな思考力と判断力を養い、言語的表現力および多様なメディアによる視覚的表現を身に付け、それをを用いて他者とのコミュニケーションを円滑に図ることができる。 3) 主体性、多様性、協働性 日本の言語や文化について関心をもち、主体的な取り組みや他者とのコミュニケーション

ンによって課題を発見・検討し、地域に根差した社会貢献に向けて、他者と協働して改善・解決を図ることができる。

【文学部国際コミュニケーション学科】

国際コミュニケーション学科では、卒業時点で以下の3点の資質・能力を身に付けたと認められる学生に対して「学士（文学）」の学位を授与する。

1) 知識・技能

英語圏、および、アジアの言語・歴史・文化について、グローバルな視野に基づいた幅広い知識・技能を修得し、応用できる。

2) 思考力・判断力・表現力等

客観的に思考し判断する能力を身に付け、外国語および多様なメディアを用いて、自らの思考や見解を表現し、グローバル化した社会において、異なる文化背景をもつ他者とコミュニケーションを図ることができる。

3) 主体性、多様性、協働性

グローバル社会や、多様な文化における様々な事象に関心をもち、主体的な取り組みや他者とのコミュニケーションによって課題を発見・検討し、社会貢献に向けて他者と協働して改善・解決を図ることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにより公表
<https://www.shitennoji.ac.jp/about/policy/>）

（概要）

【文学部】

文学部の教育課程は、文学部のディプロマ・ポリシーに掲げる知識・技能、態度等の資質・能力を身に付けた人材を育成するため、大学が定めるカリキュラム・ポリシーに基づき、「基礎教育科目」「共通教育科目」および学部所属する2学科の専門教育科目によってカリキュラムを編成する。

（1）教育課程の編成、教育内容

建学の精神や大学教育に必要な基礎知識を学ぶ科目を「基礎教育科目」に設置し、現代社会で生きるのに必要な知識・技能や幅広い教養を学ぶ科目を「共通教育科目」に設置する。

また各学科の専門教育科目において、進路について考える科目を「学部共通科目」（文学部・社会学部共通）に、主体性と協働する能力を修得する科目を「学科共通科目」（日本文学科・国際コミュニケーション学科共通）にする。

学科において知識を学び資質を高める科目のうち、基礎や中核となるものを「学科基幹科目」に、発展的かつ専門的なものを「学科専門」に設置する。そして、専門分野の知見を総合し、課題発見・解決を図る総括的な科目として3・4年次にゼミナールの科目を設置する。

（2）教育方法

1) 専門的な知識・技能を修得する講義や実習、論理思考を培い課題を発見し解決する能力を養う演習などの中で、アクティブ・ラーニングを取り入れ、主体的・対話的な学びの深化を図ります。

2) 他者と協働して社会や世界で活躍するための基盤として、言語の運用能力の深化による自他の相互理解のほか、ICTの活用をも含めたコミュニケーション能力を高めることを目指します。

（3）学修成果の評価方法

1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。

2) 講義や演習などの科目については、教育内容や形態に応じて、定期試験、中間試験などの小テスト、課題レポート、コメントシート、学生による自己評価・相互評価、ループ

リックによるパフォーマンス評価など、多面的に適切な方法を用いて評価します。

【文学部日文学科】

(1) 教育課程の編成、教育内容

日文学科では、ディプロマ・ポリシーとして示した力を修得するために、「基礎教育科目」、「共通教育科目」、「学部共通科目」、「学科共通科目」、「学科基幹科目」、「学科専門」によってカリキュラムを編成している。

1) 建学の精神・大学教育に必要な基礎知識、現代社会を生きるのに必要な幅広い知識を修得するために、「基礎教育科目」・「共通教育科目」を設置する。

2) 日本語・日本文学、国語教育・日本語教育、伝統文化・観光、現代文化（和食）の各領域についての専門的な知識・技能を修得するために、学びの根幹となる講義および演習・実習科目を「学科基幹科目」に設置し、多岐にわたってより専門化した講義および演習科目を「学科専門」に設置する。

3) 言語およびデジタルメディアによる表現力の基礎を修得するための科目を「学科基幹科目」に設置する。さらに、客観的に思考・判断しそれを表現する能力を養うための科目を「学科専門」に設置する。

4) 進路について考える科目を「学部共通科目」に設置する。また、「学科共通科目」において主体性と協働する力を修得する科目を2学科で設置する。加えて、社会体験に関する科目を「学科基幹科目」に設置し、各領域について課題発見・検討・改善に関する講義や実践的な演習・実習科目を「学科専門」に設置する。さらに総括的なゼミナールの科目を設置する。

(2) 教育方法

1) 専門的な知識・技能を修得する授業では、プレゼンテーション、グループ活動などのアクティブ・ラーニングを多く取り入れ、主体的・対話的な学びの深化を図ります。

2) 言語的表現によるコミュニケーション能力を身に付けるために、読む・聞く・書くという実践的学びを行うとともに、視覚的表現によるコミュニケーション能力を身に付けるために動画編集などの演習を行います。

3) 体験型活動を多く取り入れ、他者と協働し主体的に課題解決に取り組む経験を積む機会を十分に設けます。

(3) 学修成果の評価方法

1) 各科目の教育内容や形態に応じて、学期中の小テスト・小レポート・提出物、学期末の定期試験・レポートなどで評価する。

2) 学生自らの評価として、ループリックやコメントシートを用いた自己評価・相互評価を行わせ、その評価が適切であるかについて確認した上で、評価の材料とする。

3) 教育課程における学修がどの程度の成果を修めたかについては、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価する。

【文学部国際コミュニケーション学科】

(1) 教育課程の編成、教育内容

国際コミュニケーション学科では、ディプロマ・ポリシーとして示した能力を修得するために、「基礎教育科目」、「共通教育科目」、「学部共通科目」、「学科共通科目」、「学科基幹科目」、「学科専門」によってカリキュラムを編成している。

1) 建学の精神・大学教育に必要な基礎知識、現代社会を生きるのに必要な幅広い知識を修得するために、「基礎教育科目」・「共通教育科目」を設置する。

2) グローバルな視野に基づいた幅広い知識・技能を修得するために、英語圏・アジア圏等の文化、ホスピタリティに関する基本的な知識を修得する科目を「学科基幹科目」に設置する。また、外国語・英語教育、国際文化、ホスピタリティに関する専門的な知識・技能を修得する科目を「学科専門」に設置する。

3) 外国語およびデジタルメディアによる表現力の基礎を修得するための科目を「学科基

幹科目」に設置する。さらに、客観的に思考・判断し、自らの思考や見解を表現する能力を修得するための科目を「学科専門」に設置する。

4) 進路について考える科目を「学部共通科目」に設置する。また、「学科共通科目」において主体性と協働する力を修得する科目を2学科で設置する。加えて、海外体験に関する科目を「学科基幹科目」に設置し、観光実践、インターンシップ等で課題の発見・改善を図る演習・実習科目を「学科専門」に設置する。さらに総括的なゼミナールの科目を設置する。

(2) 教育方法

1) 専門的な知識・技能を修得する講義や実習、論理思考を培い課題を発見し解決する能力を養う演習などの中で、アクティブ・ラーニングを取り入れ、主体的・対話的な学びの深化を図ります。

2) 日本語や英語、中国語を通して多様な情報メディアを効果的に用いた豊かなコミュニケーション能力を活用することにより、実践的・創造的な学修を促します。

3) 地域社会・海外などでの体験型活動に取り組むことにより、他者と協働し主体的に課題を解決する能力を高めます。

(3) 学修成果の評価方法

1) 各科目の教育内容や形態に応じて、学期中の小テスト・小レポート・提出物、中間試験、学期末の定期試験・レポートなどで評価する。

2) 学生自らの評価として、ループリックやコメントシートを用いた自己評価・相互評価を行わせ、その評価が適切であるかについて確認した上で、評価の材料とする。

3) 教育課程における学修がどの程度の成果を修めたかについては、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにより公表
<https://www.shitennoji.ac.jp/about/policy/>）

（概要）

【文学部】

文学部は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受ける条件として、以下のような資質・能力をもつ人物を受け入れることを方針とし、試験や審査を行います。

1) 人文科学の専門知識・技能等を学ぶのに必要な基礎学力を有すること。

〔求める要素：知識・技能〕

2) ものごとを正確に捉え、論理的に考えることができ、さらに他者に明快に説明できること。

〔求める要素：思考力・判断力、表現力等〕

3) 言語・文化に対する様々な事柄に関心をもち、課題を発見し解決する意欲を有すること。

〔求める要素：関心・意欲・態度〕

4) 主体的に行動でき、異なる価値観を理解し、他者と協働できること。

〔求める要素：主体性・多様性・協働性〕

【文学部日本学科】

日本学科は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

1) 日本の言語・文化についての専門知識・技能等を学ぶのに必要な基礎学力を有すること。

〔求める要素：知識・技能〕

2) ものごとを正確に捉え、論理的に考えることができ、さらに他者に明快に説明できること。

〔求める要素：思考力・判断力・表現力等〕 3) 日本の言語・文化に対する様々な事柄に関心を持ち、課題を発見し解決する意欲を有すること。 〔求める要素：関心・意欲・態度〕 4) 主体的に行動でき、異なる価値観を理解し、他者と協働できること。 〔求める要素：主体性・多様性・協働性〕 【文学部国際コミュニケーション学科】 国際コミュニケーション学科は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。 1) 英語を通して国際文化についての専門知識・技能等を学ぶのに必要な基礎学力を有すること。 〔求める要素：知識・技能〕 2) ものごとを正確に捉え、論理的に考えることができ、さらに他者に明快に説明できる。 〔求める要素：思考力・判断力・表現力等〕 3) 言語・文化に対する様々な事柄に関心を持ち、海外体験や国際交流活動を通して課題を発見し解決する意欲を有すること。 〔求める要素：関心・意欲・態度〕 4) 主体的に行動でき、異なる価値観を理解し、相手の立場や価値観を慮った思いやりの心であるホスピタリティ精神を持ちながら他者と協働できること。 〔求める要素：主体性・多様性・協働性〕
--

学部等名 社会学部
教育研究上の目的（公表方法：ホームページにより公表 https://www.shitennoji.ac.jp/about/policy/ ）
（概要） 【社会学部】 社会学部は、世界が複雑・不確実な形で変容する中、人間と社会、文化に関わる様々な分野の動向と課題を捉えうる専門知識と知見を身につけるとともに、その人間的基礎としての社会貢献への高い使命感と他者理解の精神の養成を目的とする。そのために常に社会的関心を持って新たな課題を発見し、問題解決の道筋を探究し多様な他者と協働する力を鍛える中で、生涯を通じて学ぶ態度の育成に留意することとする。 【社会学部社会学科】 社会学科は、社会や人間について、時間と空間、マクロとミクロの視点を組み合わせながら多面的かつ客観的に捉えつつ、人々や社会の将来のあり方を見据えながら、発生する様々な課題を発見し、その解決に取り組める人材の育成を目的とする。 【社会学部人間福祉学科】 人間福祉学科は、人を思いやる心を持ち、人とのつながりを大切にしながら、福祉専門職の価値や倫理及び社会福祉的な対象理解能力や問題解決能力、さらには社会福祉の相談援助の知識・技術を身につけた人材の育成を目的とする。 卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページにより公表 https://www.shitennoji.ac.jp/about/policy/）

(概要)

【社会学部】

社会学部は、社会科学の諸領域の専門知識・技能等を修得するとともに、自他の相互理解による調和・協調の精神を基盤とし、グローバル化する社会において主体的に行動し、他者との協働により社会的課題に取り組むことができる人材の育成を目的としています。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の3点とします。

1) 人間・社会・文化に対する専門的な知識・技能

社会科学が対象とする人間・社会・文化の諸事象について、幅広い関心を持ち、専門的な知識・技術を身に付け、自ら思考し判断することができる。

2) 異なる価値をもつ他者を受容して調和を図れる豊かな人間性

コミュニケーションを通じて、自己を他者に伝えとともに、異なる価値をもつ他者や異文化を理解して様々な価値観を受け入れ、他者との調和を図ることができる。

3) 社会（組織）に活かせる課題解決能力

社会（組織）の様々な課題について、自らの主体的な取り組みや他者との協働によって解決し、自己の能力を社会に活かすことができる。

【社会学部社会学科】

社会学科は、個人から社会全体にいたる複雑な諸相に対して、客観的かつ多角的にものごとをとらえ、さまざまな課題の発見と理解、そして解決にむけて横断的に思考することができる、また、多様な人びとが活躍する社会の実現に向け、さまざまな価値観を認め、他者と協働することができる人材の育成を目的とします。その学びは、一人ひとりがより充実した人生を実現していくうえで重要なものです。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の4点とします。

1) 関心・意欲・態度

ローカルからグローバルまでさまざまなレベルで生じている個人や社会の問題に対して、意欲的に取り組み、創意工夫しながら乗り越えていこうと試みることができる。

2) 知識・技能

人間や社会、地域やメディア、心理、歴史に関する領域の専門的な理論や調査・分析方法を身につけ、課題解決のために活用することができる。

3) 思考力・判断力、表現力

自ら設定した課題に対して、上記の理論や方法、さらに ICT を活用して情報を収集し、さまざまな角度から論理的かつ横断的に考察し、その成果をわかりやすく表現することができる。

4) 主体性・多様性・協働性

多様化する現代社会において、さまざまな立場の存在を認めながら積極的にコミュニケーションを図り、自らの考えをしっかりと伝え、他者と協働することができる。

【社会学部人間福祉学科】

人間福祉学科は、人とその人を取り巻く家族・知人などの人、組織、社会などの環境に働きかけ、課題から現状の枠組みと新しい枠組みを考察することによって、現実的な目標に取り組む、共生社会のコミュニティづくりのために、地域住民等と連携しながら、地域の潜在化したニーズを発見し、分野横断的な支援体制の構築をめざす人物を育成することを目的とします。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の5点とします。

1) コミュニケーション能力

他者の話を傾聴し説明もわかりやすく、状況に合わせた非言語的表現力も適切で、円滑なコミュニケーションをとることができる。

2) 問題解決能力

社会福祉に関する問題を発見、情報を収集・分析し明確化した上で言語化できる。問題の重要性や緊急性から優先順位を考え、解決に向けて行動できる。

3) 社会福祉に関する専門技術・知識の修得

支援の対象者等の背景、属性、価値観の多様性を理解し、社会福祉に関する専門知識・技術を活用することによって、社会に貢献できる。

4) エコロジカル思考

人とその人を取り巻く家族・知人などの人、組織、社会などの環境に働きかけ、必要な課題を見出し、課題克服のために主体的に取り組むことができる。

5) イノベーション力

社会福祉専門職としての明確なビジョンを持ち、課題から現状の枠組みと新しい枠組みを考察し、現実的な目標を設定できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにより公表
<https://www.shitennoji.ac.jp/about/policy/>）

（概要）

【社会学部】

社会学部では、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）として示した能力を修得するために、学部共通科目、各学科の学科共通領域、学科専門コース・領域によってカリキュラムを編成しています。

（1）教育課程の編成、教育内容

1) 学部共通科目 社会や様々な業界・職種に対する理解を段階的に深め、社会での活躍につながるよう、1年次の共通教育科目「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」を受けて、2年次・3年次に各学科の特性に見合った内容でキャリア科目を設けています。

2) 学科共通領域 各学科の学修の基礎や中核となる科目を配置しています。1・2年次には基礎的な知識・技能やコミュニケーション能力を身につけるための少人数による主体的・実践的な科目を設置し、また3・4年次にはより専門的な知識・技能を深め主体的に思考し課題を解決する能力を養う演習科目を設けています。

3) 学科専門コース・領域 学生の興味関心や卒業後の進路に応じた能力・資質を形成するため、効果的かつ自由度の高い幅広い学びができるように、各学科の特色ある専門的な科目を体系的に編成した専門コース・領域を設けています。

（2）教育方法

1) 専門的な知識・技能を修得する講義や実習、論理思考を培い課題を発見し解決する能力を養う演習などの中で、アクティブ・ラーニングを取り入れ、主体的・対話的な学びの深化を図ります。

2) 他者と協働して社会や世界で活躍するための基盤として、言語の運用能力の深化による自他の相互理解のほか、ICTの活用をも含めたコミュニケーション能力を高めることを目指します。

（3）学修成果の評価方法

1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。

2) 講義や演習などの科目については、教育内容や形態に応じて、定期試験、中間試験などの小テスト、課題レポート、コメントシート、学生による自己評価・相互評価、ルーブリックによるパフォーマンス評価など、多面的に適切な方法を用いて評価します。

【社会学部社会学科】

（1）教育課程の編成、教育内容

社会学科は、現代社会で活躍する能力・資質の形成を目指して、人間・社会、地域・メディア、心理、歴史の4コースを編成し、基礎から応用まで段階的かつ横断的に授業科目を配置します。また、4年間一貫した少人数制の演習科目を設定し、ICTを活用した、主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を実践します。

1) 演習：主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を少人数制で実践し、自らの考えをわかりやすく伝え、積極的にコミュニケーションをとることで、他者と協働

しながら課題を解決する力を養います。1年次では「大学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、2年次では「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、3年次からの「演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」では2年間継続して同じゼミ教員のもとで「卒業研究」に取り組みます。

2) 人間・社会コース：社会学的なものの見方や考え方、調査・分析方法を身につけ、社会学の基本を学びます。1年次必修科目として「社会学概論」、「社会病理学」が設定されており、2年次以降、自由に選択科目を履修することができます。また、社会調査士の資格を取得するための科目群を設けます。

3) 地域・メディアコース：ローカルからグローバル、メディアを媒介したものまで、人と人とのつながりを通して社会や文化を読み解く力を養います。1年次必修科目として「文化研究概論」が設定されており、2年次以降、自由に選択科目を履修することができます。上記コース同様、社会調査士の資格を取得するための科目群を設けます。

4) 心理コース：人の心や行動の原理を知り、人間関係に対処する力を身につけます。1年次必修科目として「入門心理学」が設定されており、2年次以降、自由に選択科目を履修することができます。また、認定心理士の資格を取得するための科目群を設けます。

5) 歴史コース：歴史的事実を分析・解明し、幅広い角度からものごとをとらえる視野を身につけます。1年次必修科目として「入門歴史学」が設定されており、2年次以降、自由に選択科目を履修することができます。また、中学校社会や高校地理歴史・公民の教員免許、博物館学芸員の資格を取得するための科目群を設けます。

(2) 教育方法

社会学科では、各授業科目の教育内容に応じて、以下のような形式を組み合わせた多様な教育方法で授業をおこないます。

1) 講義形式：ICTや映像資料などを活用しながら、本学科の学びに関する多様な教養や知識を身につける。

2) (フィールドワークを含む) 実習形式：自らの興味関心に即して課題を設定し、ICTを活用しながら調査・分析する技能を身につける。

3) 演習形式：主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)を少人数制で実践し、自らの考えをわかりやすく伝え、積極的にコミュニケーションをとることで、他者と協働しながら課題を解決していく力を身につける。

(3) 学修成果の評価方法

1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーに基づいて評価を行う。

2) 講義や演習科目で培われた知識や技能、能力を十分に発揮できているか、学生による自己評価も踏まえ、量的側面・質的側面の両面から適切な方法を用いて総合的に評価する。

【社会学部人間福祉学科】

(1) 教育課程の編成、教育内容

人間福祉学科は、社会福祉学の要素は理念や理論だけでなく実践であるため、アウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する能力修得など実際に活用ができるカリキュラムを編成し、現場での学修およびそれに資する教育の機会を核として、講義と演習がそれを支える教育形態とします。さらに、医学、心理学、社会学、介護学などの隣接領域の基本的な知識も修得します。

1) 1年次

自己覚知、倫理、価値等の学修を行い、ソーシャルワークの価値・原則・倫理について理解し、社会福祉活動への関心を高めるために、「大学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ」を配置します。基本的な面接技術について、視聴覚教材や模擬的な実践によって修得するために「ソーシャルワーク演習Ⅰ」を配置します。社会福祉学をさまざまな視点から学修するために、「医学概論」「臨床心理学」「社会学と社会システム」「福祉法学」などの隣接領域も学修します。

2) 2年次

社会福祉の専門知識と技術を修得するために「高齢者福祉」「障害者福祉」「児童・家庭福祉」「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ～Ⅳ」「地域福祉と包括的支援体制Ⅰ・Ⅱ」などの社会福祉領域の専門科目を履修。「ソーシャルワーク演習Ⅱ・Ⅲ」「ソーシャルワーク実習指導A・B」「ソーシャルワーク実習A」では講義科目との関連性を持たせ相談援助の展開方法について学ぶ。ソーシャルワーク業務の実際について具体的かつ实际的に理解し、実践的な技術を体得します。

3) 3年次

「ソーシャルワーク実習B」において、相談援助に係わる知識と技術について、具体的かつ实际的に理解し実践的な技術を体得する。「ソーシャルワーク演習Ⅳ・Ⅴ」「ソーシャルワーク実習指導C」において、ソーシャルワーカーに求められる資質、技能、倫理、自己覚知等を深め、総合的に対応できる能力を修得し、実践と理論の一体的な理解を深めます。

4) 4年次

「人間福祉演習Ⅲ・Ⅳ」等を履修し、利他の精神に基づいて、人とのつながりを大切にしながら人と社会の在り方を多角的に考察する力を身につけ、社会福祉に関する専門知識・技術を活用することによって社会に貢献でき、現状に安住せず堅実かつ柔軟な思考で不断の刷新を図ることができる能力を修得します。

(2) 教育方法

- 1) 講義・演習・実習等の授業形態を組み合わせた授業を実施し、いずれにおいてもアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れる。
- 2) 演習においては、社会活動やフィールドワークを通して、課題解決を目的とするアクティブ・ラーニングを1年次から3年次まで段階的に取り入れる。
- 3) 実習やインターンシップにおいては、社会福祉実践現場において専門知識と専門技術の統合を1年次から3年次まで段階的に図る。
- 4) 実習においては、1年次から3年次まで実習報告会に参加し、学生の実習経験に応じた相互教育の機会を取り入れる。
- 5) 講義と演習を組み合わせた資格取得支援を目的とする授業を実施し、社会福祉専門職に求められる専門知識の定着を図る。
- 6) 3年次から4年次の少人数のゼミにおいては、社会福祉に関する個別的な関心に沿って主体的な学修を促す。

(3) 学修成果の評価方法

- 1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価する。
- 2) ディプロマ・ポリシーを目標とする学生自身の自己評価を1年次の評価から実施する。
- 3) 講義においては、小テストや期末テストを実施して、到達目標の達成度を評価する。
- 4) 演習・実習・インターンシップにおいては、ルーブリックを用いて、学生自身が学修成果のリフレクションを行う。
- 5) 演習・実習・インターンシップ等においては、学生同士の相互評価やフィードバックを活用して評価する。
- 6) 実習においては、実習指導者による評価を部分的に活用し、学生が修得した能力について複数の教員によって評価を行う。
- 7) 学修ポートフォリオを用いて、1年次の大学基礎演習から3年次のソーシャルワーク実習Bまで縦断的な評価を行う。
- 8) 1年次と3年次にPROGテストを実施し、コンピテンシーの評価を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにより公表
<https://www.shitennoji.ac.jp/about/policy/>）

(概要)

【社会学部】

社会学部は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受ける条件として、以下のような資質・能力をもつ人物を受け入れることを方針とし、試験や審査を行います。

1) 社会科学の諸領域の専門知識・技能等を学ぶのに必要な基礎学力を有すること。

〔求める要素：知識・技能〕

2) 人間・社会（世界）・文化に対する様々な事柄に関心をもち、専門的な知識・技能を身につけ、課題を発見し解決する意欲を有すること。

〔求める要素：関心・意欲・態度、思考力・判断力・表現力〕

3) 他者や社会との関係において、自ら主体的に思考し実践するとともに、異なる価値をもつ他者や異文化を理解し、他者と協働してものごとに取り組む姿勢をもつこと。

〔求める要素：主体性・多様性・協働性〕

【社会学部社会学科】

社会学科は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

1) 人間や社会、地域やメディア、心理、歴史に関するさまざまなテーマについて深い興味関心があること

〔求める要素：関心・意欲・態度〕

2) あたり前のものの見方を疑い、さまざまな角度からものごとをとらえようとする

〔求める要素：思考力・判断力、表現力〕

3) 社会学科の学びに必要な読解力や論理的思考力、表現力を有すること

〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力、表現力〕

4) 個人や社会に関するさまざまな課題に対して、他者と協働しながら積極的に取り組んでいく意欲があること

〔求める要素：主体性・多様性・協働性〕

【社会学部人間福祉学科】

人間福祉学科は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

1) 他人の話を耳を傾けることができること。

〔求める要素：関心・意欲・態度〕

2) 少子高齢化など社会的問題に関心を持っていること。

〔求める要素：関心・意欲・態度〕

3) 相談援助の知識や技術を高めようとする目標を持っていること。

〔求める要素：知識・技能、思考力〕

4) 違う価値観の人と協働して、物事に取り組むことができること。

〔求める要素：主体性・多様性・協働性、思考力・判断力、表現力〕

5) ボランティアなどの活動に関わり実践から学ぼうとする意欲があること。

〔求める要素：主体性・多様性・協働性〕

学部等名 人文社会学部

教育研究上の目的（公表方法：ホームページにより公表
<https://www.shitennoji.ac.jp/about/policy/>）

(概要)

【人文社会学部】

人文社会学部は、グローバル社会の進展の中、人間と社会、文化に関わる様々な分野の動向と課題を捉えうる専門知識と知見を身につけるとともに、その人間的基礎としての社会貢献への高い使命感と他者理解の精神の養成を目的とする。そのために常に社会的関心を持って新たな課題を発見し、問題解決の道筋を探究し多様な他者と協働する力を鍛える中で、生涯を通じて学ぶ態度の育成に留意することとする。

【人文社会学部日本学科】

人文社会学部日本学科は、日本語及び日本の歴史・文化について幅広い知識を体系的に身につけ、自ら問題点を発見して適切に解決する能力を持ち、高度な日本語コミュニケーション能力を運用しながら、他者と調和ある共生を目指すことのできる人材の育成を目的とする。

【人文社会学部国際キャリア学科】

人文社会学部国際キャリア学科は、実践的な外国語能力とコミュニケーション能力を修得し、国際問題に関する知識を身につけ、さらに、キャリア形成に必要な知識とスキルを獲得し、以ってグローバル化社会で活躍できる人材の養成を目的とする。

【人文社会学部社会学科】

人文社会学部社会学科は、広く社会に貢献しうる資質を身につけさせる観点から、社会、人間、文化のしくみや相互の関連について、柔軟かつ論理的・科学的に思考し、判断できる人材の養成を目的とする。

【人文社会学部人間福祉学科】

人文社会学部人間福祉学科は、人を思いやる心を持ち、人とのつながりを大切にしながら、福祉専門職の価値や倫理及び社会福祉的な対象理解能力や問題解決能力、さらには社会福祉の相談援助の知識・技術を身につけた人材の育成を目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページにより公表
<https://www.shitennoji.ac.jp/about/policy/>）

(概要)

【人文社会学部】

人文社会学部は、人文科学と社会科学の諸領域の専門知識・技能等を修得するとともに、人間的基礎として自他の相互理解による調和・協調の精神をもち、グローバル化する社会において主体的かつ他者との協働により活躍できる人材の育成を目的としています。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の3点とします。

1) 人間・社会・文化に対する専門的な知識・技能

人文科学・社会科学が対象とする人間・社会・文化の諸事象について、幅広い関心をもち、専門的な知識・技術を身に付け、自ら思考し判断することができる。

2) 異なる価値をもつ他者を受容して調和を図れる豊かな人間性

コミュニケーションを通じて、自己を他者に伝えるとともに、異なる価値をもつ他者や異文化を理解して様々な価値観を受け入れ、他者との調和を図ることができる。

3) 社会（組織）に活かせる課題解決能力

社会（組織）の様々な課題について、自らの主体的な取り組みや他者との協働によって解決し、自己の能力を社会に活かすことができる。

【人文社会学部日本学科】

日本学科は、日本語および日本の文学・文化・歴史について、グローバルな視野に基づいた幅広い知識を体系的に身につけ、自ら見出した課題の解決に取り組む人材、および、こうした学びを通じて体得した人間洞察力と、高度な日本語運用能力に基づく説得的かつ豊かなコミュニケーションを通じて、他者との調和ある共生を目指すことのできる人材の

育成を目的とします。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の4点とします。

1) 日本および日本語に関する幅広い知識と教養

日本の言語・文学・歴史・文化について、グローバルな視野に基づいた幅広い知識を体系的に修得し、基本的な事項を理解することができる。

2) 豊かな確かなコミュニケーション能力

自身の考えや意見を他者にわかりやすく伝えるための、適切かつ精確な日本語表現力と表現方法を修得し、状況に応じて的確に運用できる。

3) 日本語による総合的・論理的な思考力と分析力および問題発見・解決能力（高度な日本語運用能力）

ことばを適切に使う力・ことばによって伝える力を高めることによって修得される論理性・構想力・説得力・対応力・企画力・統率力を活かして、自らが発見した課題の解決に取り組み、社会（組織）で活躍することができる。

4) 自己と他者に対する理解、および豊かな人間性の涵養（確かな人間洞察力）

日本文化に関する幅広い知識を学び、これを分析することによって日本人の心性・感性・思考性を把握し、自文化および異文化の理解のみならず、自己と他者への理解を深め、より豊かな人間性の涵養を通じて他者との調和ある共生を目指せる。

【人文社会学部国際キャリア学科】

国際キャリア学科は、①実践的な外国語能力とコミュニケーション能力を自ら高めて、生涯にわたって学び続ける人材、②多様な考え方や異文化を受容する思いやりを持ち、国際問題にも関心を持つ人材、③社会に貢献するために積極的に行動できる人材の形成を目指します。また、世界で活躍するため問題解決や改革に取り組み、実現することが出来る人材の育成を目的とします。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の5点とします。

1) 外国語能力

外国語の4技能である「読む・聞く・話す・書く」を修得し、実践的な外国語能力を身につけている。

2) コミュニケーション能力

高い外国語能力に基づき、グローバル化した社会に即応したコミュニケーション能力を修得している。

3) 国際的認識能力

環境・民族紛争・宗教・経済・金融等の国際的な問題を認識し、国際社会における日本の役割を実践的に把握する能力を獲得している。

4) 異文化理解力

言語の背景にある歴史・文化・政治・経済等に関心を持ち、異文化理解への関心と意欲を身につけている。

5) 課題解決能力

自ら課題を設定し他者と協同しながら問題解決にあたり、グローバル化社会で有為の人材となるために必要な知識とスキルを獲得している。

【人文社会学部社会学科】

社会学科は、個人から社会全体にいたる複雑な諸相に対して、客観的かつ多角的にものごとをとらえ、さまざまな課題の発見と理解、そして解決にむけて横断的に思考することができる、また、多様な人びとが活躍する社会の実現に向け、さまざまな価値観を認め、他者と協働することができる人材の育成を目的とします。その学びは、一人ひとりがより充実した人生を実現していくうえで重要なものです。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の4点とします。

1) 関心・意欲・態度

ローカルからグローバルまでさまざまなレベルで生じている個人や社会の問題に対して、意欲的に取り組み、創意工夫しながら乗り越えていこうと試みることができる。

2) 知識・技能

人間や社会、地域やメディア、心理、歴史に関する領域の専門的な理論や調査・分析方法を身につけ、課題解決のために活用することができる。

3) 思考力・判断力、表現力

自ら設定した課題に対して、上記の理論や方法、さらに ICT を活用して情報を収集し、さまざまな角度から論理的かつ横断的に考察し、その成果をわかりやすく表現することができる。

4) 主体性・多様性・協働性

多様化する現代社会において、さまざまな立場の存在を認めながら積極的にコミュニケーションを図り、自らの考えをしっかりと伝え、他者と協働することができる。

【人文社会学部人間福祉学科】

人間福祉学科は、人とその人を取り巻く家族・知人などの人、組織、社会などの環境に働きかけ、課題から現状の枠組みと新しい枠組みを考察することによって、現実的な目標に取り組み、共生社会のコミュニティづくりのために、地域住民等と連携しながら、地域の潜在化したニーズを発見し、分野横断的な支援体制の構築をめざす人物を育成することを目的とします。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の5点とします。

1) コミュニケーション能力

他者の話を傾聴し説明もわかりやすく、状況に合わせた非言語的表現力も適切で、円滑なコミュニケーションをとることができる。

2) 問題解決能力

社会福祉に関する問題を発見、情報を収集・分析し明確化した上で言語化できる。問題の重要性や緊急性から優先順位を考え、解決に向けて行動できる。

3) 社会福祉に関する専門技術・知識の修得

支援の対象者等の背景、属性、価値観の多様性を理解し、社会福祉に関する専門知識・技術を活用することによって、社会に貢献できる。

4) エコロジカル思考

人とその人を取り巻く家族・知人などの人、組織、社会などの環境に働きかけ、必要な課題を見出し、課題克服のために主体的に取り組むことができる。

5) イノベーション力

社会福祉専門職としての明確なビジョンを持ち、課題から現状の枠組みと新しい枠組みを考察し、現実的な目標を設定できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにより公表
<https://www.shitennoji.ac.jp/about/policy/>）

（概要）

【人文社会学部】

人文社会学部では、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）として示した能力を修得するために、学部共通科目、各学科の学科共通領域、学科専門コース・領域によってカリキュラムを編成しています。

（1）教育課程の編成、教育内容

1) 学部共通科目 社会や様々な業界・職種に対する理解を段階的に深め、社会での活躍につながるよう、1年次の共通教育科目「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」を受けて、2年次・3年次に各学科の特性に見合った内容でキャリア科目を設けています。

2) 学科共通領域 各学科の学修の基礎や中核となる科目を配置しています。1・2年次には基礎的な知識・技能やコミュニケーション能力を身につけるための少人数による主体的・実践的な科目を設置し、また3・4年次にはより専門的な知識・技能を深め主体的に思考し課題を解決する能力を養う演習科目を設けています。

3) 学科専門コース・領域 学生の興味関心や卒業後の進路に応じた能力・資質を形成するため、効果的かつ自由度の高い幅広い学びができるように、各学科の特色ある専門的な

科目を体系的に編成した専門コース・領域を設けています。

（２）教育方法

１）専門的な知識・技能を修得する講義や実習、論理思考を培い課題を発見し解決する能力を養う演習などの中で、アクティブ・ラーニングを取り入れ、主体的・対話的な学びの深化を図ります。

２）他者と協働して社会や世界で活躍するための基盤として、言語の運用能力の深化による自他の相互理解のほか、ＩＣＴの活用をも含めたコミュニケーション能力を高めることを目指します。

（３）学修成果の評価方法

１）教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。

２）講義や演習などの科目については、教育内容や形態に応じて、定期試験、中間試験などの小テスト、課題レポート、コメントシート、学生による自己評価・相互評価、ルーブリックによるパフォーマンス評価など、多面的に適切な方法を用いて評価します。

【人文社会学部日本学科】

（１）教育課程の編成、教育内容

日本学科の教育課程は、日本の言語・文学・文化・歴史の各分野を①日本語・日本文学コース、②文化・歴史・観光コース、③現代文化コースの専門３コースに体系化し、その上で、各コースに固定することなく、学生個々の興味・関心や将来の進路に応じて、それぞれの科目群から自由に選択し、幅広く学ぶことが可能となるように編成します。また、基礎的知識・技能や、演習による専門知識の深化のために学科共通領域を設け、博物館学芸員資格取得のために博物館学芸員課程を設定します。

１）学科共通領域には、積み重ねて履修する演習科目とその他の科目を設定する。演習科目としては、基礎的知識や表現力を修得する「日本学表現演習Ⅰ・Ⅱ」「日本学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」と、専門知識の深化を図る「専門演習Ⅰ～Ⅳ」を配置する他、古典の基礎や書道の技能に関する科目等も準備する。

２）①日本語・日本文学コースには、『日本語学分野』と『日本文学分野』を設定する。『日本語学分野』には日本語の体系や歴史、および日本語教育に関する科目が、『日本文学分野』では上代から近代・現代に至る時代領域に加え、漢文学関係の科目を配置する。いずれの分野にも中学校・高等学校「国語」教員免許取得に関わる科目を重点的に盛り込み、中高「国語」の授業実践に資する科目を配置する。

３）②文化・歴史・観光コースには、『文化分野』、『歴史分野』、『観光分野』という３分野を設定する。『文化分野』には日本文化について美術的・芸術的・宗教的観点等、多様な角度から考察する科目を、『歴史分野』でも日本史をさまざまな観点から捉えなおす科目を配当し、『観光分野』には地理学から旅行実務まで幅広い科目を配置する。

４）③現代文化コースには、文学・音楽・映像・芸術からサブカルチャーに至るまで、広範な現代の文化事象を扱う科目を設定する。また、インターネットやSNS、メディアミックス等、現代のメディア状況を分析する科目も配置する。

５）博物館学芸員課程においては、講義科目から博物館における実習科目まで体系的に科目を配置し、現代社会において求められる学芸員の多様な職務に対応することのできる知識を修得する。

（２）教育方法

１）日本および日本語に関する幅広い知識と教養を修得するため、１・２年次に専門３コースに関する概論科目・基礎科目を設置する。

２）日本語による豊かなコミュニケーション能力を体得するため、１・２年次に日本語表現力を高める科目を配当する。アクティブ・ラーニングの観点からプレゼンテーション実践の機会を積極的に設定し、学修ポートフォリオを活用して主体的な省察に取り組

ませる。

3) 3・4年次には、専門演習を中心に、思考力・分析力、問題発見・解決能力を向上させる。専門領域の諸問題について論理的思考に基づく成果発表の機会を設定し、主体的に問題を発見し、解決する能力を育成する。

4) 各授業におけるプレゼンテーションに相互批評を導入し、ルーブリック評価等による明確な基準を設定することで、自己と他者への理解を深め、豊かな人間性を育み、相互に高め合う教育環境を実現する。授業と連動したインターンシップや学外ボランティア、地域連携の機会も活用する。

5) 専門演習や教職教育、日本語教員養成プログラム、博物館学芸員課程において、フィールドワークや実地見学を積極的に取り入れ、体験・経験を通じて学びの機会を提供する。

(3) 学修成果の評価方法

1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価する。

2) 講義科目においては、定期試験の基本的な重要性を踏まえつつ、中間テスト等の小テスト、課題レポート、コメントペーパー等を実施し、学修成果に対して多面的に評価する。

3) 演習科目においては、ICTの活用等を通じて他者にわかりやすく伝えるためのプレゼンテーション、それに応じての相互批評的ディスカッション、あるいはワークシートを用いたグループワーク、成果をまとめたレポート作成等、多様な実践に対する評価を中心に、学修ポートフォリオによる主体的な省察を踏まえ、総合的に評価する。

4) 教職教育、日本語教員養成プログラムにおいては、専門知識の修得をテスト等で評価するとともに、専門知識の的確なアウトプットについては模擬授業の実践を通じて評価する。実践的な応用力については、地域や教育現場におけるインターンシップやボランティア等の実践も評価に活用する。

【人文社会学部国際キャリア学科】

(1) 教育課程の編成、教育内容

国際キャリア学科は、グローバル化した社会、より複雑になりつつある国際問題に対処できる能力・知識・スキルを体系的、実践的に学ぶことを目的として教育課程を編成します。1、2年次では語学力の向上に重点を置き、さらに3年次からは各自の進路・適性に応じて、①英語・英語教育コース、②国際ビジネスコース、③国際理解・協力コースの3領域からそれぞれ指定の科目を選択履修します。3、4年次では「専門演習Ⅰ～Ⅳ(ゼミ)」を受講し、希望者は「卒業研究」に取り組みます。

1) 1年次においては、「英文法Ⅰ・Ⅱ」「Extensive Reading 初級Ⅰ・Ⅱ」「ベーシックコミュニケーションⅠ～Ⅳ」「キャリア英語入門Ⅰ・Ⅱ」を必修とします。加えて、「マクロ経済学」「英語圏文化概説」の授業が選択できます。

2) 2年次においては、中級レベル以上の英語力や国際的な感覚を身に付けるために、「Extensive Reading 中級Ⅰ・Ⅱ」「ベーシックコミュニケーションⅤ～Ⅷ」を必修とします。また、それら学科共通領域に加え、3年次からの専門演習(ゼミ)での教育に向けて、①英語・英語教育コースでは、「Reading(Culture)」「Reading(Society)」「Reading(Literature)」「英語学概説」「英語学」、②国際ビジネスコースでは、「国際ビジネス論」「国際経済学」「グローバルファイナンス」、③国際理解・協力コースでは、「国際理解教育」「異文化共生論」の3つの領域を土台として科目を選択します。

3) 3年次からは、各自の所属する専門演習(ゼミ)を中心に、各自、コース領域や進路・適性に応じて科目を選択し、履修します。①英語・英語教育コースでは、「Reading(Language)」「Extensive Reading 上級Ⅰ・Ⅱ」「アドバンスコミュニケーションⅠ～Ⅷ」等、②国際ビジネスコースでは、「貿易実務Ⅰ・Ⅱ」「金融システム論」「貿易理論」等、③国際理解・協力コースでは、「国際コミュニケーション論」「国際政治学」「国際問題論」「英国史」「社会情報論」等の授業が選択できます。また、学科共通領域として、「英米文化論」「異文化理解」等も履修することができます。

(2) 教育方法

外国語の4技能である「読む、書く、聞く、話す」を修得し、実践的な外国語能力を身につけるために、以下の様な形で教育を行います。

- 1) 学生個々人が英語の能力を効果的に高めることができるようにするため、「英文法Ⅰ・Ⅱ」「Extensive Reading 初級Ⅰ・Ⅱ」「Extensive Reading 中級Ⅰ・Ⅱ」「ベーシックコミュニケーションⅠ～Ⅷ」などの必修科目では、英語能力別にクラスの編成を行います。
- 2) 聞く力や話す力を高めるため、英語コミュニケーション能力を向上させることを目的とし、「ベーシックコミュニケーションⅠ～Ⅷ」は主にネイティブ教員が担当します。
- 3) ビジネス場面の実践的英語に習熟させるための方法として、「キャリア英語入門Ⅰ・Ⅱ」「キャリア英語」ではTOEIC等の資格取得のための学修を取り入れます。
- 4) 講義を起点とする科目においては、ICTも活用しながら、学生自身が課題を発見し、解決法を探究するアクティブ・ラーニングを実施します。
- 5) 3、4年次の専門科目のいずれにおいても、実践的な能力を発展させるため、アクティブ・ラーニング等を取り入れた授業を中心として実施します。
- 6) グローバル教育センターにおいて、学生の個別ニーズに応じ、ネイティブスピーカーによる英語と中国語の実践的会話を行うとともに、日本人教員による個別指導を行い、授業の補完とします。

(3) 学修成果の評価方法

- 1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価する。
- 2) 学修ポートフォリオ、学生調査、学位取得状況、PROGテスト、外部試験、授業アンケートなどを参考に総合的に評価する。

【人文社会学部社会学科】

(1) 教育課程の編成、教育内容

社会学科は、現代社会で活躍しうる能力・資質の形成を目指して、人間・社会、地域・メディア、心理、歴史の4コースを編成し、基礎から応用まで段階的かつ横断的に授業科目を配置します。また、4年間一貫した少人数制の演習科目を設定し、ICTを活用した、主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を実践します。

1) 演習：主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を少人数制で実践し、自らの考えをわかりやすく伝え、積極的にコミュニケーションをとることで、他者と協働しながら課題を解決する力を養います。1年次では「大学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、2年次では「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、3年次からの「演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」では2年間継続して同じゼミ教員のもとで「卒業研究」に取り組みます。

2) 人間・社会コース：社会学的なものの見方や考え方、調査・分析方法を身につけ、社会学の基本を学びます。1年次必修科目として「社会学概論」、「社会病理学」が設定されており、2年次以降、自由に選択科目を履修することができます。また、社会調査士の資格を取得するための科目群を設けます。

3) 地域・メディアコース：ローカルからグローバル、メディアを媒介したものまで、人と人とのつながりを通して社会や文化を読み解く力を養います。1年次必修科目として「文化研究概論」が設定されており、2年次以降、自由に選択科目を履修することができます。上記コース同様、社会調査士の資格を取得するための科目群を設けます。

4) 心理コース：人の心や行動の原理を知り、人間関係に対処する力を身につけます。1年次必修科目として「入門心理学」が設定されており、2年次以降、自由に選択科目を履修することができます。また、認定心理士の資格を取得するための科目群を設けます。

5) 歴史コース：歴史的事実を分析・解明し、幅広い角度からものごとをとらえる視野を身につけます。1年次必修科目として「入門歴史学」が設定されており、2年次以降、自由に選択科目を履修することができます。また、中学校社会や高校地理歴史・公民の教員免許、博物館学芸員の資格を取得するための科目群を設けます。

(2) 教育方法

社会学科では、各授業科目の教育内容に応じて、以下のような形式を組み合わせた多様な教育方法で授業をおこないます。

- 1) 講義形式：I C Tや映像資料などを活用しながら、本学科の学びに関する多様な教養や知識を身につける。
- 2) (フィールドワークを含む) 実習形式：自らの興味関心に即して課題を設定し、I C Tを活用しながら調査・分析する技能を身につける。
- 3) 演習形式：主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)を少人数制で実践し、自らの考えをわかりやすく伝え、積極的にコミュニケーションをとることで、他者と協働しながら課題を解決していく力を身につける。

(3) 学修成果の評価方法

- 1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーに基づいて評価を行う。
- 2) 講義や演習科目で培われた知識や技能、能力を十分に発揮できているか、学生による自己評価も踏まえ、量的側面・質的側面の両面から適切な方法を用いて総合的に評価する。

【人文社会学部人間福祉学科】

(1) 教育課程の編成、教育内容

人間福祉学科は、社会福祉学の要素は理念や理論だけでなく実践であるため、アウトリーチ、ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発に関する能力修得など実際に活用ができるカリキュラムを編成し、現場での学修およびそれに資する教育の機会を核として、講義と演習がそれを支える教育形態とします。さらに、医学、心理学、社会学、介護学などの隣接領域の基本的な知識も修得します。

1) 1 年次

自己覚知、倫理、価値等の学修を行い、ソーシャルワークの価値・原則・倫理について理解し、社会福祉活動への関心を高めるために、「大学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ」を配置します。基本的な面接技術について、視聴覚教材や模擬的な実践によって修得するために「ソーシャルワーク演習Ⅰ」を配置します。社会福祉学をさまざまな視点から学修するために、「医学概論」「臨床心理学」「社会学と社会システム」「福祉法学」などの隣接領域も学修します。

2) 2 年次

社会福祉の専門知識と技術を修得するために「高齢者福祉」「障害者福祉」「児童・家庭福祉」「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ～Ⅳ」「地域福祉と包括的支援体制Ⅰ・Ⅱ」などの社会福祉領域の専門科目を履修。「ソーシャルワーク演習Ⅱ・Ⅲ」「ソーシャルワーク実習指導A・B」「ソーシャルワーク実習A」では講義科目との関連性を持たせ相談援助の展開方法について学ぶ。ソーシャルワーク業務の実際について具体的かつ実的に理解し、実践的な技術を体得します。

3) 3 年次

「ソーシャルワーク実習B」において、相談援助に係わる知識と技術について、具体的かつ実的に理解し実践的な技術を体得する。「ソーシャルワーク演習Ⅳ・Ⅴ」「ソーシャルワーク実習指導C」において、ソーシャルワーカーに求められる資質、技能、倫理、自己覚知等を深め、総合的に対応できる能力を修得し、実践と理論の一体的な理解を深めます。

4) 4 年次

「人間福祉演習Ⅲ・Ⅳ」等を履修し、利他の精神に基づいて、人とのつながりを大切にしながら人と社会の在り方を多角的に考察する力を身につけ、社会福祉に関する専門知識・技術を活用することによって社会に貢献でき、現状に安住せず堅実かつ柔軟な思考で不断の刷新を図ることができる能力を修得します。

(2) 教育方法

- 1) 講義・演習・実習等の授業形態を組み合わせた授業を実施し、いずれにおいてもアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れる。
- 2) 演習においては、社会活動やフィールドワークを通して、課題解決を目的とするアクティブ・ラーニングを1年次から3年次まで段階的に取り入れる。
- 3) 実習やインターンシップにおいては、社会福祉実践現場において専門知識と専門技術の統合を1年次から3年次まで段階的に図る。
- 4) 実習においては、1年次から3年次まで実習報告会に参加し、学生の実習経験に応じた相互教育の機会を取り入れる。
- 5) 講義と演習を組み合わせた資格取得支援を目的とする授業を実施し、社会福祉専門職に求められる専門知識の定着を1年次から4年次まで段階的に図る。
- 6) 3年次から4年次の少人数のゼミにおいては、社会福祉に関する個別的な関心に沿って主体的な学修を促す。

(3) 学修成果の評価方法

- 1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価する。
- 2) ディプロマ・ポリシーを目標とする学生自身の自己評価を1年次の評価から実施する。
- 3) 講義においては、小テストや期末テストを実施して、到達目標の達成度を評価する。
- 4) 演習・実習・インターンシップにおいては、ループリックを用いて、学生自身が学修成果のリフレクションを行う。
- 5) 演習・実習・インターンシップ等においては、学生同士の相互評価やフィードバックを活用して評価する。
- 6) 実習においては、実習指導者による評価を部分的に活用し、学生が修得した能力について複数の教員によって評価を行う。
- 7) 学修ポートフォリオを用いて、1年次の大学基礎演習から3年次のソーシャルワーク実習Bまで縦断的な評価を行う。
- 8) 1年次と3年次にPROGテストを実施し、リテラシーとコンピテンシーの評価を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにより公表
<https://www.shitennoji.ac.jp/about/policy/>）

(概要)

【人文社会学部】

人文社会学部は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受ける条件として、以下のような資質・能力をもつ人物を受け入れることを方針とし、試験や審査を行います。

- 1) 人文科学と社会科学の諸領域の専門知識・技能等を学ぶのに必要な基礎学力を有すること。

〔求める要素：知識・技能〕

- 2) 人間・社会（世界）・文化に対する様々な事柄に関心をもち、専門的な知識・技能を身につけ、課題を発見し解決する意欲を有すること。

〔求める要素：関心・意欲・態度、思考力・判断力・表現力〕

- 3) 他者や社会との関係において、自ら主体的に思考し実践するとともに、異なる価値をもつ他者や異文化を理解し、他者と協働してものごとに取り組む姿勢をもつこと。

〔求める要素：主体性、多様性、協働性〕

【人文社会学部日本学科】

日本学科は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には以下のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

- 1) 中学・高校における「国語」や「書道」、「日本史」や「地理」等の科目の基本的な内

容を理解していること

〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力、表現力〕

2) 日本について知り、日本語の表現を活用して情報を発信する能力を身につけることを希望すること

〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力、表現力〕

3) 日本文化に関する幅広い知識を学び、これを分析することによって主体的に課題を解決することに取り組む意志を持つこと

〔求める要素：主体性・多様性・協働性〕

4) 日本人の心性を理解するとともに異文化への理解力を身につけ、他者と協同して課題を解決することに取り組む意志を持つこと

〔求める要素：主体性・多様性・協働性〕

5) 将来、中学高校「国語」・高校「書道」の教員、外国人に日本語を教授する日本語教員、博物館学芸員課程で得られる知識を活かした職業を目指していること。あるいは、観光・文化・教育・出版・広告などの一般企業等に就職し、日本についての知識と日本語表現力を活かして活躍することを目指していること

〔求める要素：関心・意欲・態度〕

【人文社会学部国際キャリア学科】

国際キャリア学科は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

1) 豊かな人間性を身につけ、広い視野を持って国際社会で前向きに生きていこうとする強い意欲を持つことができること。

〔求める要素：関心・意欲・態度〕

2) 本学科の専門分野を学ぶために、英語に関して高等学校等で修得すべき基礎学力を有し、思考を深めて他者に表現できること。

〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力、表現力〕

3) 言語の背後にある文化・歴史・政治・経済等の多様な要素に興味をもつことができること。

〔求める要素：関心・意欲・態度、知識・技能〕

4) 異文化に興味を持ち、海外体験の実現を通じて、自己研鑽に努めることができること。

〔求める要素：関心・意欲・態度、主体性・多様性・協働性〕

5) 現代の国際関係に関心を持ち、そこに存在する課題を発見し、その解決法を探ることができること。

〔求める要素：関心・意欲・態度、思考力・判断力〕

6) 英語教員を目指す人は、国際的視野を持った英語教員になる意志を有し、そのための努力ができること。

〔求める要素：関心・意欲・態度、知識・技能〕

【人文社会学部社会学科】

社会学科は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

1) 人間や社会、地域やメディア、心理、歴史に関するさまざまなテーマについて深い興味関心があること 〔求める要素：関心・意欲・態度〕

2) あたり前のものの見方を疑い、さまざまな角度からものごとをとらえようとする こと 〔求める要素：思考力・判断力、表現力〕

3) 社会学科の学びに必要な読解力や論理的思考力、表現力を有すること 〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力、表現力〕

4) 個人や社会に関するさまざまな課題に対して、他者と協働しながら積極的に取り組んでいく意欲があること 〔求める要素：主体性・多様性・協働性〕

【人文社会学部人間福祉学科】

人間福祉学科は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

1) 他人の話に耳を傾けることができること。

〔求める要素：関心・意欲・態度〕

2) 少子高齢化など社会的問題に関心を持っていること。

〔求める要素：関心・意欲・態度〕

3) 相談援助の知識や技術を高めようとする目標を持っていること。

〔求める要素：知識・技能、思考力〕

4) 違う価値観の人と協働して、物事に取り組むことができること。

〔求める要素：主体性・多様性・協働性、思考力・判断力、表現力〕

5) ボランティアなどの活動に関わり実践から学ぼうとする意欲があること。

〔求める要素：主体性・多様性・協働性〕

学部等名 教育学部（令和6年度以降入学生用）

教育研究上の目的（公表方法：ホームページにより公表
<https://www.shitennoji.ac.jp/about/policy/>）

（概要）

【教育学部教育学科】

教育学部教育学科は、建学の精神に基づき、乳幼児・児童・生徒の学びと育ちを支援するため、子どもをとりまく現代的課題に対して、多様な他者と協働し、幅広い視野と専門的知識・技能をもって取り組むことができる教員を養成するとともに、常に社会的関心を持って主体的に問題解決の道筋を探究し、生涯を通じて学び続ける態度を有する人材の養成を目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページにより公表
<https://www.shitennoji.ac.jp/about/policy/>）

（概要）

【教育学部教育学科】

教育学部は、社会の急激な変化の中で、子どもを取り巻く多様な現代的課題に、幅広い視野で俯瞰的に捉え、子ども一人一人に適した学びと協働的な学びの在り方を追究します。

未来を拓く子どもたちのために、教育者、保育者としての専門的知識・技能の修得、省察と研鑽による実践力・指導力の向上を図り、子どもの成長と発達を促す支援やケアのあり方を生涯にわたって学び続け、「いい先生」とは何かを問いながら、地域社会や学校・保育施設等にて、協働の力、ファシリテーション力を発揮して活躍できる教育者・保育者の養成を目的とします。

教育者、保育者としての専門的な学びを修得する上で、卒業時までには学生が身につけるべき資質・能力は、次の3点です。

1) 多様な子どもを取り巻く現代的課題に対応する力

多様な立場、考え方の存在を認め、強い意志と情熱および教育者、保育者としての使命感や責任感を持って、子どもの個々のニーズを共感的に理解し、子どもの学びと育ちに関わり、取り組むための「子ども理解」に関する専門性を獲得する。

2) 個別最適な学びと協働的な学びを実現する専門的な知識・技能と実践力を追究する力

学校・保育施設等において、子ども一人一人の興味・関心を引き出し、子どもの課題に応える「個別最適な学び」と、個の学びを小集団や全体の場で上げたり深めたりする「協働的な学び」を実現できる「教科・領域の専門性」と、ICTや教育方法を効果的に取り入れた「実践的指導力」を獲得する。

3) 変化する社会、学校・保育施設等で活躍するための包括的な協働の力

急激に変化する環境の中で、すべての子どもの可能性を引き出すために、チームの一員として、多様な人々と協働で課題解決を図り、持続可能な解決を遂行する力や種々の活動

を繋ぐ横断的なファシリテーション力を醸成する。

以上、教育者、保育者として未来を担う子どもの成長と発達を支援し、ケアするために、「子ども理解の専門性」と「教科・領域の専門性」を身につけ、「協働の力」を発揮する教育者、保育者の養成に取り組みます。

【教育学部教育学科学校教育コース】

教育学科学校教育コースは、社会の急激な変化の中で、子どもを取り巻く多様な現代的課題に幅広い視野で俯瞰的に捉え、子ども一人一人に適した学びと協働的な学びの在り方を追究します。

未来を拓く子どもたちのために、教育者としての専門的知識・技能の修得、省察と研鑽による実践力・指導力の向上を図り、子どもの成長と発達を促す支援やケアのあり方を生涯にわたって学び続け、「いい先生」とは何かを問いながら、地域社会や学校等にて、協働の力、ファシリテーション力を発揮して活躍できる小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の各学校種の教員および養護教諭の養成を目的とします。

教育者としての専門的な学びを修得する上で、卒業時までに学生が身につけるべき資質・能力は、以下の3点です。

1) 多様な子どもを取り巻く現代的課題に対応する力

多様な立場、考え方の存在を認め、強い意志と情熱および教育者としての使命感や責任感を持って、子どもの個々のニーズに共感的に理解し、子どもの学びと育ちに関わり、取り組むための「子ども理解」に関する専門性を獲得する。

2) 個別最適な学びと協働的な学びを実現する専門的知識や技能と実践力を追究する力

教育の場において、子ども一人一人の興味・関心を引き出し、子どもの課題に応える「個別最適な学び」と、個の学びを小集団や全体の場で広げたり深めたりする「協働的な学び」を実現できる「教科・領域の専門性」と、ICTや教育方法を効果的に取り入れた「実践的指導力」を獲得する。

3) 変化する社会、学校等で活躍するための包括的な協働の力

急激に変化する環境の中で、すべての子どもの可能性を引き出すために、チームの一員として、多様な人々と協働で課題解決を図り、持続可能な解決を遂行する力や種々の活動を繋ぐ横断的なファシリテーション力を醸成する。

以上、教育者として未来を担う子どもの成長と発達を支援し、ケアするために、「子ども理解の専門性」と「教科・領域の専門性」を身につけ、「協働の力」を発揮する教育者の養成に取り組みます。

【教育学部教育学科幼児教育保育コース】

教育学科幼児教育保育コースは、社会の急激な変化の中で、子どもをとりまく多様な現代的課題に、幅広い視野で俯瞰的に捉え、幼児教育の基本である環境を通して行う教育と幼児一人一人に適した学びを追究します。

未来を拓く子どもたちのために、保育者としての専門的知識・技能の習得、省察と研鑽による実践力・指導力の向上を図り、子どもの学びと育ちを促す支援やケアのあり方を生涯にわたって学び続け、「いい先生」とは何かを問いながら、社会や学校・保育施設等にて、協働の力、ファシリテーション力を発揮して活躍できる幼稚園・保育所・認定こども園の保育者養成を目的とします。

保育者としての専門的な学びを修得する上で、卒業時までに学生が身につけるべき資質・能力は、以下の3点です。

1) 多様な子どもをとりまく現代的課題に対応する力

多様な立場、考え方の存在を認め、強い意志と情熱および保育者としての使命感や責任感を持って、子どもの個々の内面的なニーズを共感的に理解し、子どもの学びと育ちに関わり、取り組むための「子ども理解」に関する専門性を獲得する。

2) 幼児期の特性を踏まえ、一人一人のよりよい学びと協働的な学びを実現する専門的知識と実践力を追求する力

多様な社会、施設・学校等において、子ども一人一人の興味・関心を引き出し、子ども

の課題に応えるために、直接的体験を重視し、ICT の効果的な活用も取り入れながら実践的指導力の獲得をめざして協働で取り組み、粘り強い省察・研鑽の力を獲得する。

3) 変化する社会、保育施設等で活躍するための包括的な協働の力

急激に変化する環境の中で、すべての子どもの可能性を引き出すために、チームの一員として、多様な人々と協働で課題解決を図り、持続可能な解決を遂行する力や種々の活動を繋ぐ横断的なファシリテーション力を身につける。

以上、保育者として、未来を担う子どもの学びと育ちを支援し、ケアするために、「子ども理解の専門性」と「教科・領域の専門性」を身につけ、「協働」の力を発揮する保育者養成に取り組みます。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにより公表
<https://www.shitennoji.ac.jp/about/policy/>）

（概要）

【教育学部教育学科】

（1）教育課程の編成、教育内容

教育学部は「学校教育コース」と「幼児教育保育コース」の2コースを設定し、ディプロマ・ポリシーに基づく教育者・保育者としての専門的知識・技能および実践力、指導力を備えた人材を育成するため、次のような科目領域により教育内容を編成します。

学校教育コースの教育課程は、『教職一般領域』『初等教育領域』『コース共通領域』『選修領域』『教育・子ども理解領域』の5領域で実施します。

『選修領域』は、[小学校選修][英語選修][数学選修][理科選修][保健教育選修][特別支援教育選修]の6選修で構成し、各学校種の教員免許状取得に必要な科目を配置しています。また、『教育・子ども理解領域』では、児童・生徒の多様性を理解し、成長と自己実現を支援し、ケアしていくための教育理論を修得します。

幼児教育保育コースの教育課程は、『教職一般領域』『コース共通領域』『幼児教育保育領域』『初等教育領域』の4領域で編成します。幼稚園教諭一種免許状、保育士資格、小学校教諭一種免許状の取得を基本的な考えとし、就学前の教育・保育から小学校教育への連続性を理解した保育者を養成するための科目を配置します。

さらに、教育・保育現場での実践的な学びを推進する「インターンシップ」等の科目を設定し、大学で学修する教育理論との往還により、教育者、保育者としての資質・能力を養成するカリキュラムを編成します。

1) 『教職一般領域』では、教育者・保育者に必須である教育学の基礎理論や実践論等を学ぶため、「教育原論」「特別支援教育」「教育心理学」「教職論」等の科目を配置します。

2) 『コース共通領域』では、教育・保育現場と大学の学びとを往還させ、豊かな人間性と確かな実践力・指導力を培うため、「教育基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「インターンシップⅠ・Ⅱ」「教育・ファシリテーション演習」などの科目を配置します。

1年次の「大学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」（共通教育科目）では、大学の教育課程についての理解を深め、円滑に学修を進めていくためのアカデミックスキルを中心に学びます。続いて、2年次の「教育基礎演習Ⅰ・Ⅱ」では、専門的な学修に要するスキルや教職のキャリア形成に向けての指導を行います。大学基礎演習・教育基礎演習、どちらもクラス担任制で実施します。3年次の「教育専門演習Ⅰ・Ⅱ」、4年次の「教育専門研究Ⅰ・Ⅱ」では、同じゼミ担当教員が2年間継続して「卒業研究」などの指導を行います。

3) 幼児教育保育コースの『幼児教育保育領域』では、幼稚園教諭および保育士の養成に必要な「領域に関する専門的事項」や「保育内容の指導法」などを配置します。また『初等教育領域』では、小学校教諭の養成に必要な「教科内容論」や「教科教育法」などを配置します。

4) 学校教育コースでは、1年次夏学期にて「学校教育入門」を配置します。学校教育とは何か、教員をめざす気持ちを高め、4年間の学修についての理解と未来の教師像を明確にして、教職のキャリア形成を図ります。『選修』決定後の2年次からは、系統性を重視したカリキュラム編成により、専門的な理論と実践を学び、総合的な知識・技能を育成します。

4-1. [小学校選修]では、小学校の教員養成に必要な教科教育に関する教育理論や実践論である「教科内容論」「初等教科教育法」などを配置します。また、幼稚園教諭一種免許状も小学校教諭一種免許状と併せて取得することも可能です。

4-2. [英語選修][数学選修][理科選修]では、中学校・高等学校の教員養成に必要な科目として、修得する各教科に応じた「専門必修科目」、「専門選択科目」「教科教育法」などを配置します。

4-3. [保健教育選修]では、子どもの多様な健康課題について考え、健全な成長発達を支援するため、「学校保健」「解剖生理学」「学校看護学」など、養護教諭をめざす上で必要な専門的科目を配置します。

4-4. [特別支援教育選修]では、特別支援教諭をめざす上で必要な「特別支援教育概論」「知的障害教育論」などの専門的科目を配置します。また、特別支援学校教諭一種免許状の取得には、小学校教諭一種免許状の取得が必要です。

4-5『教育・子ども理解領域』では、子どもを取り巻く環境の変化に対応し、子どもの理解を深め、教育を考える科目として、「子ども理解と人権」「インクルーシブ教育の理論と方法」「ICTと教育データの活用論」「プログラミング教育」などの科目を配置します。

学生は、カリキュラムを系統的に学び、学修すると共に、自らの学修内容を俯瞰することで、総合的な実践力・指導力を身につけ、未来の教師像に向かって自己実現を果たします。

(2) 教育方法

1) 「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、授業では、講話のみならずグループワーク等を取り入れ、課題追究に向けたディスカッション、グループ発表を行うなど、協働での学習活動や双方向的な授業を展開します。

2) これまでの授業実践に ICT を効果的に活用することで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に取り組みます。例えば、電子黒板、タブレット、インターネットや視聴覚機器等の活用を図り、実践力の育成に向けた模擬授業・模擬保育（動画撮影も実施）を行うなど、ICTの利点を生かした学習の推進に努めます。また、ICT アクティブ・ラーニング教室、ICT 模擬授業教室などを積極的に利用し、より効果的な授業を実践します。

3) 最新の教育・保育現場等の情報を把握し、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校、および保育所等での教育者・保育者の役割等についての理解を図るため、3年次の「教育実習」に加え、1年次に現場を知る「ハローナーサリー」「ハロースクール」、2年次に現場で学ぶ「インターンシップⅠ・Ⅱ」、3年次に「インターンシップⅢ（選択）」を実施し、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校、および保育所等での教育活動に積極的に参加し、実践的な学びを推進します。

(3) 学修成果の評価方法

1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。

2) 定期試験、小テスト、課題レポート等の提出、授業への参加態度や意欲等により、授業目標への到達度を総合的に評価します。

3) 評価の観点とレベルを示したルーブリックの活用を図るとともに、学修の状況や課題追究の過程をパフォーマンス評価します。

4) 授業・教育実習（幼・小・中・高・特別支援）・養護実習・保育実習・介護等体験などの課外活動を通して、教育者、保育者として必要な資質・能力や適性を評価します。

5) 学修ポートフォリオ（目標・自己評価、教職履修カルテ等）および上記2）～4）等をもとに、担任教員との面談等を通して自己省察を促すとともに、次の目標設定や学習方法の改善を図る形成的アセスメントを推進します。

【教育学部教育学科学校教育コース】

(1) 教育課程の編成、教育内容

【教育課程の編成】

教員は子どもの将来を担う重要な存在であることを学生が自覚し、卒業後、教育現場において、教科指導、生徒指導等の職務を担うことができる教員として必要な資質・能力を身に付け、生涯にわたって「学び続ける教員」になることを重要課題として教育課程を編成します。

教育学科学校教育コースでは、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の各学校種の教員および養護教諭の養成を目的としたカリキュラム編成を行います。

小学校の教員養成では、小学校教諭として必要な基礎的・専門的知識や技能の修得により、小学校教諭一種免許状を取得します。また、より深く、子どもや子どもを取り巻く社会の多様なニーズに応えられるよう、幼稚園・中学校・高等学校（英語・数学・理科）、養護教諭、特別支援学校のいずれかの教員免許状取得により、専門的知識や技能を基に、校種間で生じる問題への対応や中高の学習を見通した専門的な学習指導など、現場の多様な課題に対応できる専門性の高い小学校教員の養成を目標にカリキュラムを編成します。

中学校・高等学校の教員養成では、「英語」「数学」「理科」の中学校・高等学校教諭一種免許状を取得します。また、生徒の成長過程や生徒を取り巻く社会の多様なニーズに応えられるよう、隣接学校種として小学校教諭一種免許状の取得により、現場にて幅広い課題に対応できる中学校教員・高等学校教員の養成を目標にカリキュラムを編成します。

特別支援学校の教員養成では、小学校教諭一種免許状の取得と合わせて、特別支援学校教員としての専門的知識や技能を学び、特別支援学校教諭一種免許状を取得します。様々な環境の中で成長・発達する児童・生徒の学習課題についての理解を深め、現場の課題に対応できる特別支援学校教員の養成を目標にカリキュラムを編成します。

養護教諭の教員養成では、養護教諭としての専門的知識や技能の修得により、健全な成長・発達を支援する養護教諭一種免許状を取得します。さらに小学校教諭一種免許状を取得し、様々な環境の中で成長・発達する児童・生徒についての理解を深め、子どものいのちと未来を護る養護教諭の育成を目標にカリキュラムを編成します。

【教育内容】

教育学科学校教育コースでは、ディプロマ・ポリシーに基づく教員としての専門的知識および実践力、指導力を備えた人材を育成するため、次の5領域『教職一般領域』『初等教育領域』『コース共通領域』『選修領域』『教育・子ども理解領域』として教育内容を構成します。

＜全校種の教員免許状取得において必要な基礎科目＞

1) 教員としてのキャリア形成を行う科目として「学校教育入門」を配置します。教員をめざす学修の全体像を把握し、身につけたい専門性と未来の教師像を明確にします。

2) 『教職一般領域』では、教育学の基礎理論や実践論等を学び、教職の意義や教員の役割などを理解する「教育原論」「特別支援教育」「教育心理学」「教職論」等の科目を配置します。

＜自己の学びを振り返り、問い直し、深め豊かにする科目＞

3) 『コース共通領域』では、教育現場と大学での学びとの往還により、豊かな人間性と確かな実践力・指導力を培うため、「教育基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「インターンシップⅠ・Ⅱ」などの科目を配置します。また、担任制で実施する1年次の「大学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」（共通教育科目）、2年次の「教育基礎演習Ⅰ・Ⅱ」にてアカデミックスキルの基礎力を培い、3年次の「教育専門演習Ⅰ・Ⅱ」、4年次の「教育専門研究Ⅰ・Ⅱ」にて、同じゼミ担当教員が2年間継続して「卒業研究」などの指導を行います。

＜専門教育に関する科目＞

[小学校選修][英語選修][数学選修][理科選修][保健教育選修][特別支援教育選修]の6選修について、教員免許状の取得に関わる学問領域の専門的知識や技能を習得します。

4) [小学校選修]では、小学校課程の教科教育に関する基礎理論や方法論等を学ぶため、各教科の「教科内容論」「初等教科教育法」などの科目を配置します。また、幼稚園教諭一種免許状取得に必要な科目や専門性を高める科目の履修も可能です。

5) [英語選修][数学選修][理科選修]では、中学・高等学校の教員養成に必要な科目として、修得する各教科に応じた「専門必修科目」、「専門選択科目」「教科教育法」などを配置します。

6) 「保健教育選修」では、子どもの多様な健康課題について考え、健全な成長発達を支援するため、「学校保健」「解剖生理学」「学校看護学」など、養護教諭をめざす上で必要な専門的科目を配置します。

7) 「特別支援教育選修」では、特別支援教諭をめざす上で必要な「特別支援教育概論」「知的障害教育論」などの専門的科目を配置します。また、特別支援学校教諭一種免許状の取得には、小学校教諭一種免許状の取得が必要です。

＜変化する社会の中で生じる多様な教育課題に対峙するための関連科目＞

8) 『教育・子ども理解領域』では、変化する社会、学校・保育施設等における現代的な教育課題や多様な子どものニーズを理解し、成長と自己実現を支援するための子ども理解を深める科目として、「子ども理解と人権」「インクルーシブ教育の理論と方法」「ICT と教育データの活用論」「プログラミング教育」などの科目を配置します。

(2) 教育方法

1) 主体的・対話的で深い学びを実現するため、授業では、講話のみならずグループワーク等を取り入れ、課題追究に向けたディスカッション、グループ発表を行うなど、協働での学習活動や双方向的な授業を展開します。

2) 公式や文法など単に覚えるのではなく、当たり前と思っていたことは“なぜ”そうなのかな、 “なぜ”それが必要なのかを学生自身が理解を組み立て、掴み取っていくように、学生個々が多様な方法や側面から“なぜ”にアプローチして考えを深めます。

3) 情報化の進展に対応するため、ICT アクティブ・ラーニング教室、ICT 模擬授業教室、電子黒板、タブレット、インターネットや視聴覚機器等の活用を促進し、実践力の育成に向けた模擬授業の反復練習に取り入れるなど、学習方法の改善に努めます。

4) 学校での実践的な学びを推進するため、1年次に「ハロースクール」、2年次に「インターンシップⅠ・Ⅱ」を経験した後、3年次の「教育実習」「養護実習」「インターンシップⅢ（選択）」に参加します。小学校・中学校・高等学校・特別支援学校での教育活動に積極的に関わり、学びを深めます。

(3) 学修成果の評価方法

1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。

2) 定期試験、小テスト、課題レポート等の提出、授業への参加態度や意欲、学生による授業評価等により、授業目標への到達度を総合的に評価します。

3) 評価の観点とレベルを示したルーブリックの活用を図るとともに、学修の状況や課題追究の過程をパフォーマンス評価します。

4) 授業・教育実習（小・中・高・特別支援）・養護実習・介護等体験などの課外活動を通して、教育者として必要な資質・能力や適性を評価します。

5) 学修ポートフォリオ（目標・自己評価、教職履修カルテ等）および上記2）～4）等をもとに、担任教員との面談等を通して自己省察を促すとともに、次の目標設定や学習方法の改善を図る形成的アセスメントを推進します。

【教育学部教育学科幼児教育保育コース】

(1) 教育課程の編成、教育内容

【教育課程の編成】

保育者は子どもの将来を担う重要な存在であり、卒業後、保育・教育現場において、幼児の教育・保育の指導を行う職務を担うことができる保育者として必要な資質・能力を身に付け、「学び続ける保育者」になることを重要課題として教育課程を編成します。

教育学部幼児教育保育コースでは、幼稚園・保育所・認定こども園等の各施設の保育者養成を目的としたカリキュラム編成を行います。

幼稚園教諭一種免許状・保育士資格・小学校教諭一種免許状の取得を基本的な考えとし、就学前の教育・保育から小学校教育への連続性を理解した保育者を養成することを目標に編成をします。

【教育内容】

教育学科幼児教育保育コースでは、ディプロマ・ポリシーに基づく保育者としての専門的知識および実践力、指導力を備え、就学前の教育・保育から小学校教育への連続性を理解した保育者を養成するための教育課程を編成します。幼児教育・保育の基本である遊びを通した総合的な指導について修得するとともに、保護者と協働して子どもの発達を支援する専門性を身に付けるための科目を配置します。

1) 教育・保育の本質や目的に関する科目として、「教育原理」「保育原理」「子ども学概論」「子ども家庭福祉」「保育者論」などの科目を配置します。

2) 教育・保育の対象の理解に関する科目として、「保育の心理学」「子ども家庭支援の心理学」「幼児理解（教育相談を含む）」「子どもの保健」「多様な子ども理解入門」などの科目を配置します。

3) 教育・保育の内容・方法・指導法に関する科目として、「幼児教育課程総論」「保育内容総論」「保育内容の理論と方法（健康）」「保育内容の理論と方法（人間関係）」「保育内容の理論と方法（環境）」「保育内容の理論と方法（言葉）」「保育内容の理論と方法（表現）」「子どもと遊び」「音楽実践演習（器楽）」などの科目を配置します。

4) 教育・保育現場での実践力を高める科目として、「インターンシップ」「保育インターンシップ」「教育実習」「保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」などの科目を配置します。

5) 小学校での教科内容や指導法に関する科目として、「教科内容論（国語）」「教科内容論（生活）」「初等算数科教育法」「初等音楽科教育法」「道德教育の理論と方法（小・中・養）」などの科目を配置します。

（2）教育方法

1) 主体的・対話的で深い学びを実現するため、授業では、講話のみならずグループワーク等を取り入れ、課題追求に向けたディスカッション、グループ発表を行うなど、双方向的な授業を展開します。

2) 保育実践力の育成に向け、模擬保育室を利用した模擬保育の実施や視聴覚教材等を活用した保育実践の具体化を行い、学修方法の改善に努めます。

3) 最新の教育・保育現場の情報の把握、幼稚園・保育所・認定こども園・児童福祉施設等での保育者の役割等の理解を図るため、「大学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」や「教育基礎演習Ⅰ・Ⅱ」を中心に、本学の卒業生の現役保育者などを招聘し、講習会やセミナーを実施します。

4) 幼稚園・保育所等施設での実践的な学びを推進するため、2年次・3年次の教育保育実習に加え、1年次に「ハローナーサリー」（保育所・認定こども園での体験）、2年次にインターンシップ（幼稚園等でのインターンシップ）、「保育インターンシップ」（保育所等でのインターンシップ）、「教育基礎演習Ⅰ・Ⅱ」で「模擬授業」などを実施し、幼稚園・保育所等での教育・保育活動に積極的に参加し、実践的な学びを推進します。

（3）学修成果の評価方法

1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。

2) 定期試験、小テスト、課題レポート等の提出、授業への参加態度や意欲、学生による授業評価等により、授業目標への到達度を総合的に評価します。

3) 評価観点とレベルを示したルーブリックの活用を図るとともに、学修の状況や課題追究の過程をパフォーマンス評価します。

4) 授業・保育・教育実習（保育所・認定こども園・施設・幼稚園）などの課題活動を通して、保育者として必要な資質・能力や適性を評価します。

5) 学修ポートフォリオ（目標・自己評価、履修カルテ等）および上記2）～4）をもとに、担任教員との面談等を通して自己省察を促すとともに、次の目標設定や学習方法の改善を図ります。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにより公表
<https://www.shitennoji.ac.jp/about/policy/>）

(概要)

【教育学部教育学科】

教育学部は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

1) 教育・保育に対する強い情熱をもって専門的に学びながら、子どもの多様なニーズへの共感的理解をもとに、一人一人に応じた支援やケアを重視して教育・保育に取り組む熱意溢れる人

〔求める要素：関心・意欲・態度〕

2) 本学の専門分野を学ぶために、高等学校等で習得すべき基礎学力を有し、教育・保育についての学びや実践を、子どもの発達を総合的に見通して取り組むことができるように、広い視野から現代の教育課題を捉え、教育・保育活動にいかしていこうと努める人

〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力〕

3) 他者や社会との対話を通して自己の考えを表現し、豊かな人間関係を築きながら協働の力を発揮しようと努める人。また、探究心と洞察力を持ち、新しい課題にも果敢に挑戦し、実践力、指導力を身につけようと努める人

〔求める要素：主体性・多様性・協働性〕

【教育学部教育学科学校教育コース】

教育学科学校教育コースは、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

1) 教育に対する強い情熱を持って専門的に学びながら、子どもの多様なニーズへの共感的理解をもとに、一人一人に応じた支援やケアを重視して教育に取り組む熱意溢れる人

〔求める要素：関心・意欲・態度〕

2) 本学の専門分野を学ぶために、高等学校等で習得すべき基礎学力を有し、教育についての学びや実践を、子どもの発達を総合的に見通して取り組むことが出来るように、広い視野から現代の教育課題を捉え、教育活動にいかしていこうと努める人

〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力〕

3) 他者や社会との対話を通して自己の考えを表現し、豊かな人間関係を築きながら協働の力を発揮しようと努める人。また、探究心と洞察力を持ち、新しい課題にも果敢に挑戦し、実践力、指導力を身につけようと努める人

〔求める要素：主体性・多様性・協働性〕

【教育学部教育学科幼児教育保育コース】

教育学科幼児教育保育コースは、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

1) 強い意志と情熱を持って専門的に学びながら「めざす保育者像とは」、と問い続けていく人。また、子どもを一人の人間として尊重し、一人一人の子どもの「心もち」に寄り添い、発達課題に応じた支援やケアを考えようと努める人。

〔求める要素：関心・意欲・態度〕

2) 本学の専門分野を学ぶために、高等学校等で習得すべき基礎学力を有し、教育・保育についての学びや実践を、子どもの育ちや子どもが育つ家庭環境や地域社会の状況を考え、広い視野から現代の教育・保育課題を捉え、教育保育活動に活かしてしていこうと努める人

〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力〕

3) 他者や社会との対話を通して自己の考えを表現し、豊かな人間関係を築きながら協働の力を発揮しようと努める人。また、探究心と洞察力を持ち、新しい課題にも果敢に挑戦し、実践力、指導力を身につけようと努める人

〔求める要素：主体性・多様性・協働性〕

学部等名 教育学部（令和5年度以前入学生用）
教育研究上の目的（公表方法：ホームページにより公表 https://www.shitennoji.ac.jp/about/policy/） （概要） 【教育学部教育学科】 教育学部教育学科は、人間と人間社会のあり方と教育（保育）の関係についての基本的な知見を修得することを前提に、制度と内容にわたる全面的な改革を要請されるわが国教育の歴史的社会的背景を把握し、この改革を担うに足る専門的知識と実践技能の体得を目的とする。そのために常に社会的関心を持って新たな課題を発見し、問題解決の道筋を探求し多様な他者と協働する力を鍛える中で、生涯を通じて学ぶ態度の育成に留意することとする。教育学科小学校教育コースでは、児童生徒、教育、社会についての幅広い知識に加えて、教員に求められる専門的知識と適切な教育活動が実践できる技能を有するとともに、利他の精神と教職への強い使命感と責任感を持って社会に貢献できる人材の育成を目的とする。 教育学科幼児教育保育コースは、多様なニーズのある社会、保育施設等、子どもに応えることができる豊かな人間性と幼児教育・保育に関する専門的知識及び実践力、指導力を持ち、生涯にわたり学び続ける優れた保育者の育成を目的とする。 教育学科英語教育・小学校コース、中高英語教育コースは、英語の専門的知識を修得した上で、小学校教員や中高の英語教員として相応しい英語力や、異文化に関わる多様な事象に興味と関心を持ち、自己と他者への理解を深め、他者と協同する態度を身につけた人材の養成を目的とする。 教育学科保健教育コースは、「高い人格と豊かな資質をもって、児童生徒を人として尊重し、専門知識と技能、教育指導力を有する優れた養護教諭の養成を行うこと」を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページにより公表 https://www.shitennoji.ac.jp/about/policy/） （概要） 【教育学部教育学科】 教育学部は、多様なニーズのある社会、学校・保育施設等、子どもに応えることができる豊かな人間性と教育に関する専門的知識および実践力、指導力を持ち、「いい先生」とは何かを問い、生涯に渡り学び続け、社会や学校・保育施設等で活躍できる優れた教員・保育者になることを目的とします。 このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の3点とします。 1）教員、保育者としての自己分析・自己研鑽の力 学びや実践を通して多様なニーズのある社会、学校・保育施設等、子どもに応えることができる専門的知識および実践力、指導力を身に付け、「いい先生」とは何かを常に問い続け、自己の実践を振り返り、自己を高めていくことができる。 2）教員、保育者としてふさわしい豊かな人間性 多様な立場、考え方の存在を認め、「いい先生」になるという強い意志と情熱および教員、保育者としての使命感や責任感を持ち、子どもの多様なニーズを共感的に理解し、課題の解決に他者と協働して取り組むことができる。 3）変化する社会、学校・保育施設等で活躍できる力 学びや実践を通して多様なニーズのある社会、学校・保育施設等、子どもを的確に理解し、専門的知識および実践力、指導力を基に協働して課題の解決や改革に取り組み、実現することができる。 【教育学部教育学科小学校教育コース】 教育学科小学校教育コースは、多様なニーズのある社会、学校、子どもに応えることができる豊かな人間性と教育に関する専門的知識および実践力、指導力を持ち、「いい先生」とは何かを問い、生涯にわたり学び続け、社会や学校で活躍できる優れた小学校教員にな

ることを目的とします。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の3点とします。

- 1) 教員としての自己分析・自己研鑽の力学びや実践を通して多様なニーズのある社会、学校、子どもに応えることができる専門的知識および実践力、指導力を身に付け、「いい先生」とは何かを常に問い続け、自己の実践を振り返り、自己を高めていくことができる。
- 2) 教員としてふさわしい豊かな人間性多様な立場、考え方の存在を認め、「いい先生」になるという強い意志と情熱および教員としての使命感や責任感を持ち、子どもの多様なニーズを共感的に理解し、課題の解決に他者と協働して取り組むことができる。
- 3) 変化する社会、学校で活躍できる力学びや実践を通して多様なニーズのある社会、学校、子どもを的確に理解し、専門的知識および実践力、指導力を基に協働して課題の解決や改革に取り組み、実現することができる。

【教育学部教育学科幼児教育保育コース】

教育学部教育学科幼児教育保育コースは、多様なニーズのある社会、保育施設等、子どもに応えることができる豊かな人間性と幼児教育・保育に関する専門的知識および実践力、指導力を持ち、「いい先生」とは何かを問い、生涯にわたり学び続け、社会や保育施設等で活躍できる優れた保育者になることを目的とします。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の3点とします。

- 1) 保育者としての自己分析・自己研鑽の力学びや実践を通して多様なニーズのある社会、保育施設等、子どもに応えることができる専門的知識および実践力、指導力を身に付け、「いい先生」とは何かを常に問い続け、自己の実践を振り返り、自己を高めていくことができる。
- 2) 保育者としてふさわしい豊かな人間性多様な立場、考え方の存在を認め、「いい先生」になるという強い意志と情熱および保育者としての使命感や責任感を持ち、子どもの多様なニーズを共感的に理解し、課題の解決に他者と協働して取り組むことができる。
- 3) 変化する社会、保育施設等で活躍できる力学びや実践を通して多様なニーズのある社会、保育施設等、子どもを的確に理解し、専門的知識および実践力、指導力を基に協働して課題の解決や改革に取り組み、実現することができる。

【教育学部教育学科英語教育・小学校コース】

教育学部英語教育・小学校コースは、建学の精神にある「利他」（自分の利益を考えずに他人の利益を優先し、他人の幸福を願うこと）を主体的に実践し、日本国憲法および教育基本法の理念である「外国語（英語）教育を通じた人格の向上と国際平和に寄与できる国民」の育成に貢献できる教育者を育てることを目的とします。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の3点とします。

- 1) 異文化対応能力異文化にかかわる多様な事象に興味と関心を持ち、自己と他者への理解を深め、豊かな人間性と、他者と協働する態度を身につけている。
- 2) 自己表現力中学校・高等学校の英語教員に相応しい英語能力を修得し、教員としての基本的専門的知識を体系的に身につけている。また、自身の考えや意見を、日本語や英語などでの的確に表現し、他者に伝える能力を身につけている。
- 3) 思考力・判断力英語の能力を養い、教員としての論理的思考、問題発見解決力、判断力を身につけている。

【教育学部教育学科保健教育コース】

教育学部保健教育コースは、子どもの多様な現代的健康課題に対応できる広い視野と専門的な知識・技能および教育現場に求められる実践力・指導力を有し、子どもの些細な心身の変化にもいち早く気づいて寄り添える優しさ、思いやり、温かさを兼ね備えた養護教諭を育成することを目的とします。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の3点とします。

- 1) 養護教諭としての自己分析・自己研鑽の力養護教諭としての学修課題を受け止め、学びの意義を見出し、専門的知識と技能、養護実践力・指導力を身に付け、自己の教育理念

と教育実践を相対化し、省察することができる。

2) 養護教諭としてふさわしい豊かな人間性子どもの健やかな心と体を育みのちを護る養護教諭としての熱意や責任感を持ち、子どもが発するサインに気づき、迅速かつ的確に対処することができる。また、慈愛の心を持ち、子どもに寄り添い、多様なニーズを共感的に理解し、寛容な態度で子どもと接することができる。

3) 変化する社会、学校園で活躍できる力養護教諭の職責と社会が求める役割を理解し、チーム学校の一員として、他の職員と連携し、子どもの抱える多様な健康課題の解決に取り組み、実現することができる。また、地域の医療機関や関連機関の機能を理解し、コーディネーターとしての役割を果たすことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにより公表
<https://www.shitennoji.ac.jp/about/policy/>）

（概要）

【教育学部教育学科】

（1）教育課程の編成、教育内容

教育学部は、教員、保育者として必要な専門的知識および実践力、指導力を身に付けることを目指して多様な進路に応じた小学校教育、幼児教育保育、英語教育・小学校、保健教育の4つのコースを設定し、『教職一般領域』『初等教育領域』『学科共通領域』に加え、『専修領域』において基礎から応用までの段階を考慮した多様な授業科目を配置します。また、多様なニーズのある社会、学校・保育施設等、子どもに応えることができるよう『子ども教育領域』や『子ども理解領域』を設けています。さらに学校インターンシップなどの4年間を見通した実践的な学びの場を多く設定します。

1) 『教職一般領域』では、教員・保育者に必須である教育学の基礎理論や実践論等を学ぶため、「教育原論」「教育心理学」「教育課程総論（小・中・高・養）」「教育方法・技術（情報通信技術の活用含む幼小中高養）」などの科目を配置します。

2) 『初等教育領域』では、教科教育に関する基礎理論や実践論等を学ぶため、各教科の「教科内容論」「初等教育法」などの科目を配置します。

3) 『学科共通領域』では、学校現場・保育現場と大学での学びとを関連させながら、豊かな人間性と実践力、指導力を培うため、「教育基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「インターンシップⅠ～Ⅲ」などの科目を配置します。また、1年次の「大学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、2年次の「教育基礎演習Ⅰ・Ⅱ」を土台に、3年次からの「教育専門演習Ⅰ・Ⅱ」と「教育専門研究Ⅰ・Ⅱ」では2年間継続して同じゼミ教員のもとで「卒業研究」に取り組みます。

4) 『専修領域』では、1年次に、これまでの学びをほぐし、とらえ直すため、「数理探究の扉」「英語探究の扉」「パフォーマンス演習」などの科目を配置します。その後、専門的な理論と実践論等を学ぶため、小学校教育コースでは、特別支援教育、幼児教育、英語教育、数学教育の4つのプログラムに応じた多様な科目を、幼児教育保育コース、英語教育・小学校コース、保健教育コースでは、それぞれの進路に応じた多様な科目を配置します。

5) 『子ども教育領域』では、これまでの学びや実践を通じた疑問や課題を解決し、学びを深めるため、「教科内容探究」や各教科の「初等教育演習」などの科目を配置します。また、各々の進路実現をより確実にするため、「教科内容研究Ⅰ～Ⅲ」「教科総合演習Ⅰ・Ⅱ」などの科目を配置します。

6) 『子ども理解領域』では、変化する社会、学校・保育施設等、子どもの理解を深めるため、「多様な子ども理解入門」「子ども発達環境論」「子ども企業研究」などの科目を配置します。

（2）教育方法

1) 主体的・対話的で深い学びを実現するため、授業では、講話のみならずグループワーク等を取り入れ、課題追求に向けたディスカッション、グループ発表を行うなど、双方向的な授業を展開します。

2) 情報化の進展に対応するため、ICTアクティブ・ラーニング教室、ICT模擬授業教室、電子黒板、タブレット、インターネットや視聴覚機器等の活用を図ったり、実践力

の育成に向け模擬授業・模擬保育（ビデオによる収録も実施）を行ったりして、学修方法の改善に努めます。

3) 最新の教育現場等の情報の把握、小学校・中学校・幼稚園・保育所等での教員・保育者の役割等の理解を図るため、「大学基礎演習」や「教育基礎演習」を中心に、本学卒業生の現役教員・保育者などを招聘し、講習会やセミナーを実施します。

4) 実践的な学びを推進するため、3年次の教育実習に加え、1年次に「大学基礎演習」で「ハロースクール」、2年次に「インターンシップ」などを実施し、小学校・中学校・幼稚園・保育所等での教育活動に積極的に参加します。

（3）学修成果の評価方法

1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。

2) 定期試験、小テスト、課題レポート等の提出、授業への参加態度や意欲、学生による授業評価等により、授業目標への到達度を総合的に評価します。

3) 評価観点とレベルを示したルーブリックの活用を図るとともに、学修や課題追求の過程をパフォーマンス評価します。

4) 授業・教育実習（幼・小・中）・保育実習・介護等の体験などの課題活動を通して、教員・保育者として必要な資質・能力や適性を評価します。

5) 学修ポートフォリオ（目標・自己評価、履修カルテ等）および上記2）～4）等をもとに、担任教員との面談（振り返り等）等を通して自己省察を促すとともに、次の目標設定や学修方法の改善等を図ります。

【教育学部教育学科小学校教育コース】

（1）教育課程の編成、教育内容

教育学科小学校教育コースでは、小学校教員において必要な基礎的科目に加え、子どもや子どもを取り巻く社会の多様なニーズに応えられるよう、“特別支援教育”、“幼児教育”、“英語教育”、“数学教育”の4つのプログラムに関する科目を置き、各専門的知識を持った小学校教員となるようなカリキュラムを編成します。また、小学校教員の専門性をより深められるよう、応用科目を『子ども教育領域』と『子ども理解領域』に設けます。そして、実践したことを振り返り、次の実践につなげるために、学校現場での学びと連動させる科目を置きます。

＜小学校教員として必要な基礎科目＞

1) 『教職一般領域』では、教員に必須である教育学の基礎理論や実践論等を学ぶため、「教育原論」、「教育心理学」、「教育課程総論（小・中・高・養）」、「教育方法・技術（情報通信技術の活用含む幼小中高養）」などの科目を配置します。

2) 『初等教育領域』では、教科教育に関する基礎理論や実践論等を学ぶため、教科等の領域から「教科内容論」「初等教育法」などの科目を配置します。

＜自己の学びを振り返り、問い直し、深め豊かにする科目＞

3) 『学科共通領域』では、学校現場と大学での学びとを関連させながら、豊かな人間性と実践力、指導力を培うため、「教育基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、「インターンシップⅠ～Ⅲ」などの科目を配置します。

4) 『専修領域』では、1年でハロースクール、ハローナーサリーとして学校園の見学を実施した後、学校現場での学びとして、2年次の「インターンシップⅠ・Ⅱ」、3年次の「教育実習」につなげます。そして、実践したことを振り返り、次の実践につなげるために、「子どもと家族・社会」などの科目を配置します。

5) 『専修領域』には、異なった視点から今までの学びを見直す“学びほぐし”を行うため、「数理探究の扉」などの科目も配置します。

＜4種の専門教育に関する科目＞

6) 『専修領域』には、多様な子どもと向き合うための専門的な理論と実践論等を学ぶため、“特別支援教育”“幼児教育”“英語教育”“数学教育”の4つのプログラムに応じた科目も配置します。

＜小学校教員の専門性をより深める科目＞

7) 『子ども教育領域』では、これまでの学びや実践を通じた疑問や課題を解決し、学びを深めるための「教科内容探究」や各教科の「初等教育演習」などの深掘り科目のほか、「教科内容研究Ⅰ～Ⅲ」、「教科総合演習Ⅰ・Ⅱ」などの進路実現に向けた科目を配置します。

8) 『子ども理解領域』では、変化する社会、学校、子どもの理解を深めるため「多様な子ども理解入門」、「子ども発達環境論」、「子ども企業研究」などの科目を配置します。

(2) 教育方法

1) 主体的・対話的で深い学びを実現するため、授業では、講話のみならず、課題追求に向けたディスカッション、グループ発表を行うなど、双方向的な授業を展開します。また、1年次より「パフォーマンス演習」等で状況の変化に合わせて心身を動かし表現する活動を取り入れます。

2) 「数理探究の扉」などでは、公式や文法など単に覚えるのではなく、当たり前と思っていたことは“なぜ”そうになっているのか、“なぜ”それが必要なのかを学生自身が理解を組み立て、掴み取っていけるように、学生個々が多様な方法や側面から“なぜ”にアプローチできるようにします。

3) 情報化の進展に対応するため、アクティブ・ラーニング教室やICT模擬授業教室、様々なICTツールの活用を図ったり、実践力の育成に向け模擬授業（ビデオによる収録も実施）を行ったりして、学修方法の改善に努めます。

4) 学校での実践的な学びを推進するため、3年次の教育実習に加え、1年次の「ハロースクール」、2年次から4年次にかけて「インターンシップⅠ～Ⅲ」などを実施し、学校での教育活動に積極的に参加します。そして、「子どもと家族・社会」などでは、教育現場で経験したケースや課題を検討します。

(3) 学修成果の評価方法

1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。

2) 定期試験、小テスト、課題レポート等の提出、授業への参加態度や意欲、学生による授業評価等により、授業目標への到達度を総合的に評価します。

3) 評価観点とレベルを示したルーブリックの活用を図るとともに、学修や課題追求の過程をパフォーマンス評価します。

4) 授業・教育実習（小・中・特別支援）・介護等の体験などの課題活動を通して、教員として必要な資質・能力や適性を評価します。

5) 学修ポートフォリオ（目標・自己評価、履修カルテ等）および上記2）～4）をもとに、担任教員との面談等を通して自己省察を促すとともに、次の目標設定や学修方法の改善を図ります。

【教育学部教育学科幼児教育保育コース】

(1) 教育課程の編成、教育内容

教育学科幼児教育保育コースは、幼稚園教諭1種免許状、保育士資格、小学校教諭1種免許状の取得を基本的な考えとし、就学前の教育・保育から小学校教育への連続性を理解した保育者を養成するための教育課程を編成します。幼児教育・保育の基本である遊びを通じた総合的な指導について修得するとともに、保護者と協働して子どもの発達を支援する専門性を身につけるための科目を配置します。講義科目と演習科目をともに配置し、それらを通じた学びと実習やインターンシップ等での実践場面との往還を図り、保育者として必要な専門的知識および実践力、指導力を身につけることを目指した教育課程を編成します。

1) 教育・保育の本質や目的に関する科目として、「教育原論」「保育原理」「子ども学概論」「子ども家庭福祉」「保育者論」などの科目を配置します。

2) 教育・保育の対象の理解に関する科目として、「保育の心理学」「子ども家庭支援の

心理学」「幼児理解（教育相談を含む）」「子どもの保健」「多様な子ども理解入門」などの科目を配置します。

3) 教育・保育の内容・方法・指導法に関する科目として、「幼児教育課程総論」、「保育内容総論」、「保育内容の理論と方法（健康）」、「子どもと遊び」、「音楽実践演習（器楽）」などの科目を配置します。

4) 教育・保育現場での実践力を高める科目として、「インターンシップⅠ～Ⅲ」「保育インターンシップ」「教育実習」「保育実習Ⅰ～Ⅲ」などの科目を配置します。

5) 小学校での教科内容や指導法に関する科目として、「教科内容論（国語）」「教科内容論（生活）」「初等算数科教育法」「初等音楽科教育法」「道徳教育の理論と方法（小・中・養）」などの科目を配置します。

（２）教育方法

1) 主体的・対話的で深い学びを実現するため、授業では、講話のみならずグループワーク等を取り入れ、課題追求に向けたディスカッション、グループ発表を行うなど、双方向的な授業を展開します。

2) 保育実践力の育成に向け、模擬保育室を利用した模擬保育の実施や視聴覚教材等を活用した保育実践の具体化を行い、学修方法の改善に努めます。

3) 最新の教育・保育現場の情報の把握、幼稚園・保育所・認定こども園・児童福祉施設等での保育者の役割等の理解を図るため、「大学基礎演習」や「教育基礎演習」を中心に、本学の卒業生の現役保育者などを招聘し、講習会やセミナーを実施します。

4) 幼稚園・保育所等での実践的な学びを推進するため、2～3年次の保育実習・教育実習に加え、1年次に「大学基礎演習」で「ハローナーサリー」（保育所体験）、2年次に「インターンシップ」（幼稚園でのインターンシップ）、「保育インターンシップ」（保育所等でのインターンシップ）を実施し、幼稚園・保育所等での教育・保育活動に積極的に参加します。

（３）学修成果の評価方法

1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。

2) 定期試験、小テスト、課題レポート等の提出、授業への参加態度や意欲、学生による授業評価等により、授業目標への到達度を総合的に評価します。

3) 評価観点とレベルを示したルーブリックの活用を図るとともに、学修や課題追求の過程をパフォーマンス評価します。

4) 授業、インターンシップ、実習等での課題活動を通して、保育者として必要な資質・能力や適性を評価します。

5) 学修ポートフォリオ（目標・自己評価、履修カルテ等）および上記2）～4）等をもとに、担任教員との面談（振り返り等）等を通して自己省察を促すとともに、次の目標設定や学修方法の改善等を図ります。

【教育学部教育学科英語教育・小学校コース】

教育学部英語教育・小学校コースの教育課程は、「基礎教育科目」、「共通教育科目」、「専門教育科目」の三つの科目群を柱として構成します。英語教育の重要性がますます高まる中、中学校・高等学校における英語教育を担当するのに十分な英語力・指導力を備えた教員を養成します。

1) 1年次は、専門知識を修得するとともに、幅広い教養を身につけ、教職への関心を高め、意欲の向上を図ります。同時に、教育者として必要なコミュニケーション能力や表現力を養います。「ことばへの扉」、「英語学概説」、「英語音声学」、「英文法Ⅰ・Ⅱ」、「中等英語科教育法Ⅰ」、「ベーシックコミュニケーションⅠ・Ⅱ」、「英語圏文化概説」などを開講しています。

2) 2年次は、1年次での学びを深め、広げていくとともに、十分な英語力・指導力を備えた教員を目指し、より実践的な科目を履修します。「英語文学概説」、「英語文学Ⅰ・

Ⅱ」、「中等英語科教育法Ⅱ・Ⅲ」、「英語学特論Ⅱ（英語教授法）」、「ベーシックコミュニケーションⅢ・Ⅳ」、「世界英語の文化圏Ⅰ・Ⅱ」などを開講します。

3) 3年次は、2年間の学びを基礎にさらなる充実を図り、教育現場での英語教諭の職務と役割を理解し、総合的な教育力・使命感・責任感を身につけます。「第二言語習得論」、「英語学特論Ⅰ（認知言語学）」、「中等英語科教育法Ⅳ」、「教育専門演習Ⅰ・Ⅱ」、「アドバンスコミュニケーションⅠ・Ⅱ」、「教育実習指導（英語）」、「教育実習Ⅰ・Ⅱ（英語）」などを開講します。

4) 4年次は、大学生活の集大成として、これまでに学んだ知識と教育実習で修得した教科指導力を統合し、使命感や責任感、学識と技能、実践的な指導力を有する英語教諭としての資質の構築とその確認を行います。「教職実践演習（教諭）」「教育専門研究Ⅰ・Ⅱ」、「卒業研究」などを開講しています。

(2) 教育方法

1) 講義および演習では、教員の講義だけでなく、学生による発表やディスカッション、グループワーク等のアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れた双方向的授業を展開しています。

2) 少人数制を活かし、数多くの模擬授業を学生に体験させています。模擬授業では一般教室に加えICT教室も利用し、電子黒板やタブレット等のICTを活用した効果的な学修方法を教員と学生がともに模索しています。

3) インターネットを利用した授業支援システム（IBU.net）を導入し、授業時間外での課題の提示や双方向の議論を可能にしています。

4) 最近の教育現場の状況を把握し英語教諭の役割を理解するために、本学の卒業生や現役の教諭を招聘し、講演会やセミナーを実施しています。

5) 教育実習に加え、学校インターシップ、地域の学校ボランティア活動を通して、授業方法の他に諸活動や学校運営について学び、教育の実践力を高めます。

(3) 学修成果の評価方法

1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。

2) 知識の理解を確認する定期試験および授業内小テストや課題レポート、ならびに授業への参加態度や意欲、学生による授業評価などにより、各科目がシラバスに明示した目標への到達度を総合的に評価します。

3) 評価観点とレベルを示したルーブリックなどを用いて、自己評価と他者による評価をもとに、学修成果を客観的に把握します。

4) 講義（重要事項の知識の修得）・教育実習（小・中・高）・介護等の体験などの課題活動を通して、教員として必要な資質能力が身についているかを振り返る自己評価シート（履修カルテ）を定期的に点検し、教育者としての適性を評価します。

5) 「教育専門演習Ⅰ・Ⅱ」、「教育専門研究Ⅰ・Ⅱ」において、学生自らが課題を見つけ、「卒業研究」として発表し、教員がその研究の課程と成果を評価します。

【教育学部教育学科保健教育コース】

(1) 教育課程の編成、教育内容

教育学部保健教育コースの教育課程は、「基礎教育科目」、「共通教育科目」および「専門教育科目」から成り、時代の要請に応える実践的且つ専門性の高い優れた養護教諭を養成するため、理論（大学における講義・演習での学び）と実践（学校・医療機関を始めとする臨地実習での学び）の往還を図り、教養の豊かさと専門の深さとを兼ね備えた内容とします。また、4年間で、養護教諭免許状、小学校教諭免許状が取得できるよう、充実した教育内容・カリキュラムを編成します。さらに、教員以外の就職を望む学生には、2年次よりキャリア関連科目の履修が可能となり、企業インターンシップへの参加、キャリア相談会等、一般就職への支援も強化します。

保健教育コースで配置する専門教育科目の主な内容は下記の通りです。

1) 教育職員としての養護教諭の基本原理養護教諭の歴史と制度、養護教諭の専門性と基本的責務、保健室の機能とその果たす役割を学ぶため、「保健室への扉」と「養護概説」を配置します。また、子どもの健全な発育発達を促す学校保健および学校安全の意義と制度、学校保健活動や学校安全活動の実際について理解するため、「学校保健」を配置します。

2) 発達過程にある子どもの理解からだのしくみ、発達過程における各期の発達の特徴や病的変化、病態の特徴および治療法を学ぶため、「解剖生理学」、「学校看護学Ⅱ（疾病Ⅰ）」、「学校看護学Ⅲ（疾病Ⅱ）」、「微生物学」、「薬理概論」を配置します。また、特別な支援を必要とする子どもとその発達過程についての専門的知識と技能を修得するため、「学校看護学Ⅰ（基礎）」と「精神保健」を配置します。

3) 発達観・健康観の育成と養護実践を進める方法子どもの発達と健康にかかわる生活習慣や環境、発達と健康の評価方法、養護実践を支える社会資源について理解を深めるため、「栄養学（食品学を含む）」、「衛生学」、「公衆衛生学（予防医学を含む）」を配置します。

4) 養護実践の内容と方法学童期・思春期に発生する傷病の特性とその適切な対処法等、養護実践を行うために必要な知識・技術・方法を修得し、統合化を図る能力を養い、養護教諭の専門性を一層高めるため、「学校救急処置」、「健康相談」、「学校看護学Ⅳ（応用）」を配置します。

5) 臨地における実地研究学校教育の場で子どもと直接かわり、養護実践について学び、必要な技術・態度を修得するため、「インターンシップⅠ～Ⅲ」、「養護実習」、「臨床看護学演習」等、種々の実習・演習を設けます。また、これらの臨地実習を通し、医療機関における機能と役割、学校と医療機関との連携についても理解を深めます。さらに、大学で学んだ理論を臨地で実証し研究するとともに、研究して得られた成果を一般化する実践と研究の相互関連を学び、教育専門職としての自覚を深め、能力向上を図ります。

（２）教育方法

1) 主体的・対話的で深い学びを実現するため、授業では、講話のみならずグループワーク等を取り入れ、課題追求に向けたディスカッション、グループ発表を行うなど、双方向的な授業を展開します。

2) 定期的に保健教育の模擬授業実践演習を実施しており、一般教室およびＩＣＴ教室での授業実践とビデオによる収録を通し、振り返りを常に行いながら、授業技術と指導力の向上を目指します。

3) 養護教諭の実践技術力向上のため、少人数クラスでの、救急処置法と学校看護技術、健康相談と保健指導に必要なカウンセリング的技術等の実技指導を行います。

4) 実際の保健室の状況を把握し、養護教諭の役割をより深く理解するため、本学卒業生で現役養護教諭を招聘し、講演会やセミナーを開催します。

5) 臨地実習に加え、インターンシップ、保健室ボランティア活動では、一定期間連続して学校に出向き、学校の諸活動や子どもの現状、保健室運営等について学びます。また、高大連携校での保健指導と健康診断の補助を行い、養護教諭の実践教育力を高めます。

（３）学修成果の評価方法

1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。

2) 定期試験、小テスト、課題レポート等の提出、授業への参加態度や意欲、学生による授業評価、出欠の状況等により、授業目標への到達度を総合的に評価します。

3) 保健教育に関わる授業実践、救急処置等の養護教諭に求められる看護技術、各種演習において、評価観点とレベルを示したルーブリックを用いて、学修や課題追求、考察の過程をパフォーマンス評価し、学修成果を客観的に把握します。

4) 講義・養護実習・教育実習（小学校）・介護等の体験等の課外活動を通して、教員として必要な資質・能力や適性を評価します。

5) 学修ポートフォリオ（目標・自己評価、履修カルテ等）および上記２）～４）等をも

とに、担任教員との面談（振り返り等）等を通して自己省察を促すとともに、次の目標設定や学修方法の改善等を図ります。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにより公表
<https://www.shitennoji.ac.jp/about/policy/>）

（概要）

【教育学部教育学科】

教育学部は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

1) 「いい先生」になるという強い意志と情熱を持って専門的に学びながら「いい先生」とは、と問い続け、子どもの多様なニーズを共感的に理解しつつ一人ひとりに応じた支援やケアを考えようとするができること。

〔求める要素：関心・意欲・態度〕

2) 本学の専門分野を学ぶために、高等学校等で習得すべき基礎学力を有し、教育についての学びや実践を、子どもの成長や育ちを考え、広い視野から現代の教育課題を捉えながら、教育活動にいかしていこうとすることができること。

〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力、表現力〕

3) 他者や社会との対話を通して自己の考えを表現し、豊かな人間関係を築きながら協働しようとし、探究心と洞察力を持ち、新しい課題にも果敢に挑戦し、実践力、指導力を身に付けようとするができること。

〔求める要素：主体性・多様性・協働性〕

【教育学部教育学科小学校教育コース】

教育学科小学校教育コースは、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

1) 「いい先生」になるという強い意志と情熱を持って専門的に学びながら「いい先生」とは、と問い続け、子どもの多様なニーズを共感的に理解しつつ一人ひとりに応じた支援やケアを考えようとするができること。

〔求める要素：関心・意欲・態度〕

2) 本学の専門分野を学ぶために、高等学校等で習得すべき基礎学力を有し、教育についての学びや実践を、子どもの成長や育ちを考え、広い視野から現代の教育課題を捉えながら、教育活動にいかしていこうとすることができること。

〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力、表現力〕

3) 他者や社会との対話を通して自己の考えを表現し、豊かな人間関係を築きながら協働しようとし、探究心と洞察力を持ち、新しい課題にも果敢に挑戦し、実践力、指導力を身に付けようとすることができること。

〔求める要素：主体性・多様性・協働性〕

【教育学部教育学科幼児教育保育コース】

教育学科幼児教育保育コースは、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

1) 「いい先生」になるという強い意志と情熱を持って専門的に学びながら「いい先生」とは、と問い続けていくことができること。また、子どもを一人の人間として尊重し、一人ひとりの子どもの「心もち」に寄り添い、発達課題に応じた支援やケアを考えようとするができること。〔求める要素：関心・意欲・態度〕

2) 本学の専門分野を学ぶために、高等学校等で習得すべき基礎学力を有し、教育・保育についての学びや実践を、子どもの育ちや子どもが育つ家庭環境や地域社会の状況を考え、広い視野から現代の教育・保育課題を捉えながら、教育・保育活動にいかしていこうとすることができること。〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力、表現力〕

3) 他者や社会との対話を通して自己の考えを表現し、豊かな人間関係を築きながら協働しようとし、探究心と洞察力を持ち、新しい課題にも果敢に挑戦し、実践力、指導力を身につけようとするができること。〔求める要素：主体性・多様性・協働性〕

【教育学部教育学科英語教育・小学校コース】

教育学部英語教育・小学校コースでは、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

1) 建学の精神を理解し、「利他」の精神を実践できること〔求める要素：関心・意欲・態度、主体性・多様性・協働性〕

2) 英語を通して異文化の窓口となれること〔求める要素：関心・意欲・態度、知識・技能、主体性・多様性・協働性〕

3) 英語についての知識（英語の文法・語法および歴史や文化）と英語を実際に使う技能の両方を向上させるための努力を惜しまないこと〔求める要素：関心・意欲・態度〕

4) 入学の段階で論理的・批判的思考に耐えうる英語力を身につけていることに加えて「英語が好きである」「外国語に興味がある」ということ〔求める要素：思考力・判断力、関心・意欲・態度〕

5) 外国語として英語を学ぶ生徒のロールモデルとしての教員の役割を自覚し、英語で英語を教える力をつけるための努力を惜しまないこと〔求める要素：関心・意欲・態度、表現力、主体性・多様性・協働性〕

6) 英語を苦手とする生徒・児童の気持ちを理解し、心に寄り添えること〔求める要素：関心・意欲・態度、表現力、主体性・多様性・協働性〕

7) 入学後、国内外の英語研修や自主勉強会などに積極的に参加し、自らの英語力を高めようという意欲があること〔求める要素：関心・意欲・態度、主体性・多様性・協働性〕

【教育学部教育学科保健教育コース】

教育学部保健教育コースは、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

1) 「いい先生」になるという強い意志と情熱をもち、専門的に学びながら、「いい先生」とは、と問い続けていくことができること。また、豊かな人間性（慈愛の心・利他の精神）を身につけ、子どもの訴えに心から耳を傾け、子どもの多様な課題やニーズを共感的に理解し、一人ひとりに応じた支援やケアを考えようとするができること。〔求める要素：関心・意欲・態度〕

2) 本学の専門分野を学ぶために、高等学校までの学習を幅広く修得しており、広い視野で教育・社会問題の現状と子どもを取り巻く心身の健康課題をとらえながら、教育活動に活かしていこうとする意欲があること。〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力、表現力〕

3) 他者や社会との対話を通して自己の考えを表現し、豊かな人間関係を築きながら協働しようとし、探求心と洞察力を持ち、新しい課題にも果敢に挑戦し、実践力、指導力を身につけようとすることができること。〔求める要素：主体性・多様性・協働性〕

学部等名 経営学部

教育研究上の目的（公表方法：ホームページにより公表
<https://www.shitennoji.ac.jp/about/policy/>）

(概要)

【経営学部経営学科】

経営学部経営学科は、企業や行政機関などの組織活動に必要な経営の専門知識と実践能力を身につけるとともに、高い使命感と倫理観を涵養し、広く社会に貢献できる人材の養成を目的とし、次の2専攻を設ける。

【経営学部経営学科公共経営専攻】

経営学科公共経営専攻は、行政機関を中心に、公共サービスを担う多様な組織の経営活動に必要な専門知識と論理的思考能力を修得し、地域社会の要請に応え、主体的に課題発見・解決に取り組める人材の養成を目的とする。

【経営学部経営学科企業経営専攻】

経営学科企業経営専攻は、多様な経営領域の専門知識を修得し、企業や地域社会と連携した実践的活動を通じて、グローバルからローカルまで幅広い舞台で新たな課題の発見・解決に貢献しうる人材の養成を目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページにより公表
<https://www.shitennoji.ac.jp/about/policy/>）

(概要)

【経営学部経営学科】

経営学部では、幅広い教養と多様な経営領域の専門知識を系統的に修得し、将来、企業や行政機関などにおいて活躍し、あるいは起業や事業承継を通じて広く社会に貢献できる人材を養成することを目的とします。

このために、卒業時点で学生が身につけている能力・資質は、以下の5点を目標としています。

1) 幅広い教養と多様な経営領域に関する知識

企業や各種団体、国・地方公共団体などの組織において活躍する、また自ら起業家として事業を創出、継承するために備えるべき幅広い一般教養と多様な経営領域の知識を系統的に修得している。

2) 専門的知識・技能の修得と課題発見解決力

より専門性の高い経営領域の知識・技能を修得する中で、その知識・技能に裏付けられた論理的思考にもとづき、組織や地域などの課題に取り組み、解決する能力を備えている。

3) 情報を判断し分析・活用する力

情報通信技術（ICT）を効果的に活用し、経営・経済・行政に関する情報やデータ等を適切に収集・分析・整理するとともに、その結果を的確に表現・伝達・管理保存し、課題解決に活用する能力を備えている。

4) 協働のためのコミュニケーション能力

多様な立場・考え方を認めたうえで自らの考えを他者に論理的かつ明確に伝え、周囲を説得できる説明能力と、他者との協働を円滑に行えるコミュニケーション能力を備えている。

5) 社会人としての自己研鑽力

社会人として高い倫理観を有し、物事に関心を持って誠実にかかわる姿勢を備え、自らのキャリアに関係する知識・スキルなどの修得に積極的かつ継続的に励み、社会の変化に柔軟に対応できるよう、生涯にわたり学び続ける意欲を備えている。

【経営学部経営学科公共経営専攻】

経営学科公共経営専攻は、学生一人ひとりの個性を伸ばし、幅広い教養と高い専門的知識を系統的に修得し、将来、公務員として国や地方公共団体等の各種機関で活躍して社会公共の利益に資する人材、または公益団体および企業でリーダーシップを発揮して社会に貢献できる人材を養成することを目的とします。

このために、卒業時点で学生が身につけている資質・能力は、以下の5点を目標としています。

1) 公務員としての幅広い教養と多様な経営領域の知識

公務員として、または民間企業や各種団体等で活躍するため、幅広い一般教養と多様な経営領域の知識を系統的に修得している。

2) 専門的知識・技能の修得と課題解決力

より専門性の高い経営および法学領域の知識・技能を修得し、その知識・技能に裏付けられた論理的思考にもとづき、行政や地域コミュニティ、NPO等の抱える課題を発見し、解決する能力を備えている。

3) 公務員としての情報を判断し、分析・活用する力

情報通信技術（ICT）を効果的に活用するスキルと、データを適切に収集・分析・整理して課題を発見し、解決に活かす能力を備えている。

4) 協働のためのコミュニケーション能力

多様な立場・考え方を認め合う中で自らの考えを他者に論理的かつ明確に伝え、周囲を説得できる説明能力と、他者との協働が円滑に行えるコミュニケーション能力を備えている。

5) 公務員としての自己研鑽力

行政の担い手として高い倫理観を有し、物事に関心を持って誠実にかかわる姿勢を備え、自らのキャリアに関係する知識・スキルなどの修得に積極的かつ継続的に励み、生涯にわたり学び続ける意欲を備えている。

【経営学部経営学科企業経営専攻】

経営学科企業経営専攻は、学生一人ひとりが個性を伸ばし、幅広い教養と高い専門的知識を系統的に修得して、将来、民間企業などで幅広く活躍できる人材、起業家精神を発揮して事業を創出、継承、発展させることができる人材を養成することを目的とします。

このために、卒業時点で学生が身につけている資質・能力は、以下の5点を目標としています。

1) 企業人としての幅広い教養と多様な経営領域に関する知識

ビジネスで活躍できる企業人などとして、幅広い一般教養と多様かつ、高い専門性の経営領域の知識を系統的に修得している。

2) 専門的知識・技能の修得と課題発見解決力

より専門性の高い経営領域の知識・技能を修得し、その知識・技能に裏付けられた論理的思考にもとづき、企業や地域経済の抱える課題を発見解決したり、新たな事業を創出、継承、発展させたりする能力を備えている。

3) 企業人としての情報を判断し、分析・活用する力

情報通信技術（ICT）を効果的に活用する技術と、データを適切に収集・分析・整理して課題を発見し、解決に活かす能力を備えている。

4) 協働のためのコミュニケーション能力

多様な立場・考え方を認め合う中で自らの考えを他者に論理的かつ明確に伝え、周囲を説得できる説明能力と、他者との協働を円滑に行えるコミュニケーション能力を備えている。

5) 社会の変化に対応できる自己研鑽力

企業人として高い倫理観を有し、物事に関心を持って誠実にかかわる姿勢を備え、自らのキャリアに関係する知識・スキルなどの修得に積極的かつ継続的に励み、社会の変化に柔軟に対応できるよう、生涯にわたり学び続ける意欲を備えている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにより公表
<https://www.shitennoji.ac.jp/about/policy/>）

（概要）

【経営学部経営学科】

（1）教育課程の編成、教育内容

経営学部における教育課程編成・実施の基本的な考え方として、経営学を中核とし、法学から情報・キャリアまでの幅広い領域の専門教育科目について、目標に応じて基礎分野から応用分野まで確実に修得できるように、学年の進行に合わせて系統的に配置します。

主要科目区分として、経営学の基本的な知識を体系的にまとめた経営共通コア科目、両

専攻の主たる専門教育科目である公共経営コア科目、企業経営コア科目、特定の専門領域の学修を深めるビジネス情報、地域創生、会計・ファイナンス、ホスピタリティの4つの領域の科目、さらに将来のキャリア形成のためのキャリアサポート科目を設けています。1年次には経営共通コア科目を中心に経営学の基本的な知識を固め、2年次以降は各専攻のコア科目を中心に据えて、4つの専門領域から興味のある科目を自由に選択して学ぶことにより、専門性を高めることができるように編成しています。また、キャリアサポート科目では、職業適性や将来設計について考え、社会・職業への円滑な移行を促し、キャリア目標を達成するために必要な科目を学年に応じて系統的に配置します。

（2）教育方法

1）開講科目全般については、従来の講義形式に加え、ICTを効果的に活用し、学生と教員間、学生と学生間の双方向性があり、かつ、学内外との連携を推進した授業を実施します。

2）ビジネス情報、地域創生、会計・ファイナンス、ホスピタリティの4領域を設け、学生が興味のある領域を柔軟に選択し、幅広い教養から専門性の高い知識までを系統的に学べる科目を配置します。

3）学生の将来の進路を見据えた特徴ある科目を専攻ごとに基本から実践まで設けます。公共経営専攻では、公務員として必要な知識を習得する演習科目である「行政職特別演習」や「公共政策特別演習」等を設け、企業経営専攻では将来のキャリアを見据えた演習科目として「キャリア演習Ⅲ・Ⅳ」「インターンシップ」を配置し、適性の向上を図ります。

4）公的資格（簿記、FP、宅建士、販売士、PC検定、ビジネス実務法務、ビジネス実務マナー等）を、無理なく段階的に取得するための支援授業を連続して配置します。

5）体験型、地域連携型科目を数多く設け、またゼミナールや授業外プロジェクトを通じて積極的かつ継続的なアクティブ・ラーニングを効果的に行うことによって、学生自らが課題を発見し、能動的に情報収集・調査・分析・発表・議論・研究できる学習環境を整えます。

（3）学修成果の評価方法

教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。

【経営学部経営学科公共経営専攻】

（1）教育課程の編成、教育内容

経営学科公共経営専攻における教育課程編成・実施の基本的な考え方として、経営学・法学の各領域の専門科目について基礎分野から応用分野まで確実に修得できるように学年進行に合わせて配置し、公務員として活躍するために必要な専門科目を将来の進路に合わせて系統的に選択できるよう編成します。

1）経営学・法学の基本的知識を修得します。

経営領域の基本的な知識を網羅的にまとめた経営共通コア科目として「経営学基礎Ⅰ」「商業簿記Ⅰ」「マーケティング」「憲法Ⅰ」「民法Ⅰ」「経済学概論」などを、1年次に設けています。

2）公務員として活躍するために必要な専門的知識を修得します。

「行政法」「行政職特別演習」「公共政策特別演習」などをはじめとする、公務員試験で求められる知識を含め、公務員として働くうえで修得しておくべき専門領域を公共経営コア科目として設けています。公務員試験に合格できる知識とともに、実際に公務員として働く際に応用すべき知識の基礎を培います。

3）地域を支える行政や企業等の多様な団体に対する理解を深めます。

行政と連携・協働して地域を支えている企業などの実態理解を促進するために、地域創生領域の科目として「地域活性化概論」「地域活性化演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」などを配置しています。アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れ、地域の活性化や発展に向けて課題を発見し、解決できる論理的思考力と主体的な行動力を養います。

4）ICTを効果的に活用してデータを読み解き、活用する力を養います。

ICTリテラシーおよびICTスキルを身につける「情報リテラシー」「プログラミング」、

データを用いて課題を解決する知識を身に付ける「AI データサイエンス概論」「マーケティングリサーチ」などをビジネス情報領域の科目として設けています。

5) 公務員としての資質を向上させます。

経営共通コア科目の「専門演習Ⅰ～Ⅳ」に加え、「キャリア演習Ⅰ・Ⅱ」「公務員基礎演習」「公共経営論」などのキャリアサポート科目の履修によって、公務員に求められる倫理観、使命感を育み、資質の向上を支援します。「専門演習Ⅰ～Ⅳ」は、3、4年次の必修科目として、4年間の学びを深化させるとともに、希望者は「卒業研究」論文に取り組みます。

(2) 教育方法

1) 公共経営に関する科目全般については、学生が自ら設定した目標達成のために、従来の講義に加え、学生が ICT を効果的に活用し、能動的に調査・分析のうえ、一定の結論を導き出し、発表や議論をするなど、積極的にアクティブ・ラーニングを実施します。

2) 公務員に必要な知識の修得については、双方向形式の講義を通じて体系的な学びを促進することに加え、公務員試験に対応するために幅広い教養を養うとともに、実践的かつ具体的な指導を行うことによって即戦力となれる資質を養成します。

3) 専門教育科目や専門演習などにおいて、学問的および実務的な観点からも公務員の職務について探究し、行政サービス、福祉政策はじめ、社会問題の解決を視野に入れた企画・提案に取り組む機会を設け、学生主導型の積極的な学びにより、公務員が備えるべき高度な人権意識をもって職務が遂行できる力を養います。

4) 公務員として備えるべき倫理的価値観の向上を図るとともに、地域連携型科目を通して地域を支える行政等に対する理解を深め、学外活動においても積極的に地域社会に関わり、市民に貢献する経験を通じて、より実践的に地域社会で広く活躍できる人材を養成します。

(3) 学修成果の評価方法

1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。

2) 各科目において習熟度を測るために学期末試験に加え、中間試験や小テストを行うとともに、科目の特色に応じて、レポート等の課題を与え、受講姿勢も含めて総合的に評価します。体験型の科目については、アクティブ・ラーニングの一環として実施するグループワーク、発表・報告等に加え、平素の意欲的な学修姿勢も含めて総合的に評価します。

3) 公務員試験に直結する科目については、セメスターごとに全国的評価を行っている外部機関による模擬試験を実施することにより、目標とするキャリアの獲得に向けて学修の進捗度を評価する機会を設けます。

【経営学部経営学科企業経営専攻】

(1) 教育課程の編成、教育内容

経営学科企業経営専攻における教育課程編成・実施の基本的な考え方として、経営学の各領域について基礎分野から応用分野まで学年進行に合わせて専門科目を配置し、系統的なカリキュラムから希望する進路に合わせて、自由に科目が選択できるように編成します。

1) 経営学の基本的知識から応用的知識まで体系的・段階的に修得します。

経営領域の基本的な知識を経営共通コア科目として配置している「経営学基礎Ⅰ」「商業簿記Ⅰ」「会計学概論」「マーケティング」などの科目を軸として学び、「経営管理論」「経営組織論」「会社法」「財務管理論」などの科目を企業経営コア科目として有機的に配置し、学年進行に合わせて無理なく学ぶことができるように系統的に編成しています。

3、4年次には専門知識の深化を図る「専門演習Ⅰ～Ⅳ」を必修とし、希望者は担任教員の指導の下、「卒業研究」論文に取り組みます。

2) 4つの経営領域を設けて、より専門性の高い学びを提供します。

ICT リテラシー・ICT スキルの修得と実際のデータを用いて課題を解決する知識を学ぶビジネス情報領域、地域経済の活性化や起業の方法を学ぶ地域創生領域、社会で役立つ高度

な会計・金融知識を学ぶ会計ファイナンス領域、ホスピタリティ業界（ホテル・ブライダル、ツーリズム、フードビジネス、医療事務など）の経営を学ぶホスピタリティ領域を重点的に設定し、学生一人ひとりの将来の職業適性と目標意識も視野に入れた自由、かつ柔軟な科目選択を可能とします。

3) 公的資格の取得を支援します。

公的資格試験合格を活用したキャリア開発意欲の向上を促進する科目として「ライセンスセミナー」「不動産研究」を設け、公的資格試験に挑戦し、合格することで専門知識に加え、職業適性を開発します。公的資格試験として、簿記、ファイナンシャル・プランニング技能士、宅建士、販売士、ビジネス実務法務、ビジネス実務マナー、ITパスポートなどの合格を目標とした指導・支援を行います。

4) キャリア開発に直結する指導をします。

「キャリア演習Ⅰ～Ⅲ」において社会人としての資質向上支援を行い、「インターンシップⅠ・Ⅱ」で実際の就業体験を行い、「キャリア演習Ⅳ」で模擬就活体験を実施し、適性に合ったキャリア開発を支援するとともに、将来のキャリアに必要な専門知識・スキルを認識する機会として、キャリアサポート科目を提供します。

(2) 教育方法

1) 企業経営に関する科目全般の方向性として、従来の講義形式に加えて、学生が ICT を効果的に活用し、学生と教員間、学生と学生間の双方向性ある授業を実施します。

2) 学生自らが設定した目標達成のために、能動的に研究・調査・分析・発表・議論する体験型授業を多く設けることによって、積極的かつ継続的にアクティブ・ラーニングを効果的に行います。

3) 学生のキャリア開発のために、経営学部独自のキャリアサポート科目を設け、入学時から卒業年次までキャリア教育を継続的に教授します。また、国内でのインターンシップに加え、海外インターンシップを実施し、グローバル社会にも対応できる職業人を養成することに加え、地域連携型授業を通して地域社会で活躍できる人材の育成を推進します。

4) 適性に合ったキャリアを支えるために、公的資格（簿記、FP、宅建士、販売士、PC検定、ITパスポート、ビジネス実務法務、ビジネス実務マナー等）の取得を支援する授業をカリキュラムに体系的に配置することにより、初級レベルから上級レベルまで学生が段階的に学修し、無理なく資格取得できる力を養成します。

(3) 学修成果の評価方法

1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。

2) 各科目において習熟度を測るために学期末試験を行うとともに、科目の特色に応じて中間試験や小テストを行い、課題を与えて評価します。体験型の科目については、アクティブ・ラーニングの一環として実施するグループワーク、発表・報告等に加え、平素の意欲的な学修姿勢も含めて総合的に評価します。

3) 国内外でのインターンシップ科目については、インターンシップ実施企業と連携して、実践可能な到達目標を設定し、企業や教員による評価、さらに学生の自己評価等多面的できめ細やかな評価を行います。

4) 資格取得を目標とする科目については、小テスト、中間・学期末試験、平素の受講態度等に加えて、外部評価となる資格取得の成果も評価の対象とします。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにより公表
<https://www.shitennoji.ac.jp/about/policy/>）

(概要)

【経営学部経営学科】

経営学部では、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような能力・資質、目的意識をもった人物を求めます。

1) 高等学校等の教育課程を幅広く修得しており、大学での学修に必要な基礎知識・学力・

技能を有していること。

〔求める要素：知識・技能〕

2) 経済・経営や社会・生活に関する諸問題に関心を持ち、将来、専門知識や経験を活かして、企業人や公務員としてさまざまな分野で活躍し、社会に貢献しようとする高い就業意欲や使命感があること。

〔求める要素：関心・意欲・態度〕

3) 学校行事、クラブ活動、ボランティア活動等を主体的、かつ他者と協働して幅広く取り組んだ経験があり、そこでの自らの役割と成果を説明できること。

〔求める要素：主体性・多様性・協働性〕

4) 高等学校までのグループ活動等の学びを通じて、社会的課題に関心を持ち、さまざまな視点から総合的かつ論理的に物事を考え、自己の意見を表現できること。

〔求める要素：思考力・判断力・表現力〕

【経営学部経営学科公共経営専攻】

経営学科公共経営専攻は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような能力・資質、目的意識をもった人物を求めます。

1) 高等学校等の教育課程を幅広く修得しており、大学での学修に必要な基礎学知識・学力・技能を有していること。

〔求める要素：知識・技能〕

2) 経済・経営や社会・生活に関する諸問題に関心を持ち、将来、専門知識や経験を活かして、公務員としてさまざまな分野で活躍し、社会に奉仕しようとする高い就業意欲や使命感があること。

〔求める要素：関心・意欲・態度〕

3) 学校行事、クラブ活動、ボランティア活動等を主体的に、かつ他者と協働して幅広く取り組んだ経験があり、そこでの自らの役割と成果を説明できること。

〔求める要素：主体性・多様性・協働性〕

4) 高等学校までのグループ活動等の学びを通じて、社会的課題に関心を持ち、さまざまな視点から総合的かつ論理的に物事を考え、自己の意見を表現できること。

〔求める要素：思考力・判断力・表現力〕

【経営学部経営学科企業経営専攻】

経営学科企業経営専攻は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような能力・資質、目的意識をもった人物を求めます。

1) 高等学校等の教育課程を幅広く修得しており、大学での学修に必要な基礎知識・学力・技能を有していること。

〔求める要素：知識・技能〕

2) 経営・経済や社会・生活に関する諸問題に関心を持ち、企業・団体等への高い就業意欲や起業・事業継承に向けての意欲があり、そのために資格取得や国内外で実施するインターンシップにも積極的かつ誠実に取り組む気持ちがあること。

〔求める要素：関心・意欲・態度〕

3) 学校行事、クラブ活動、ボランティア活動等を主体的に、かつ他者と協働して幅広く取り組んだ経験があり、そこでの自らの役割と成果を説明できること。

〔求める要素：主体性・多様性・協働性〕

4) 高等学校までのグループ活動等の学びを通じて、社会的課題に関心を持ち、さまざまな視点から総合的かつ論理的に物事を考え、自己の意見を表現できること。

〔求める要素：思考力・判断力・表現力〕

学部等名 看護学部

教育研究上の目的（公表方法：ホームページにより公表）

<https://www.shitennoji.ac.jp/about/policy/>)

(概要)

【看護学部】

看護学部看護学科は、人間の生命と尊厳の尊重及び権利の擁護といった高い倫理観を基盤に、あらゆる健康レベルの個人、家族、集団、地域の顕在的、潜在的な健康課題を解決するために必要な人間力、専門的知識・技能・態度を修得し、自律的、創造的に看護を実践できる看護人材の育成を目的とする。

また、これからの少子高齢社会の動向を見据え、地域におけるケアの重要性を認識して、人々が住み慣れた場所で安心して療養を継続でき、幸せに生きていくことができる社会の実現に貢献できる人材育成を目指す。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページにより公表
<https://www.shitennoji.ac.jp/about/policy/>)

(概要)

【看護学部】

看護学部は、教育理念に基づき、①豊かな教養と高い倫理観を醸成すること、②自ら考え、課題を発見し、解決の方法を見出し、行動できる主体性と創造性を涵養すること、③看護の本質を熟考し続け、どんな状況であっても最善の看護を提供できる実践力を身につけることを目的とします。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下7点とします。

1) 高い倫理観を備え、他者と関係を築く力

- ①人間を多局面から統合的に理解することができる。
- ②他者と相互理解を深め、成長し合う関係を築くことができる。
- ③人間の尊厳と権利を擁護することができる。

2) 課題を発見し、対応する能力

- ①情報を目的に応じて活用することができる。
- ②課題を発見し、優先順位をつけて、課題解決の方法を考え対応できる。
- ③学際的な幅広い知識と看護学の専門知識を体系的に修得することができる。

3) 健康と生活を包括的、継続的に支援する看護実践力

- ①特定の健康課題に対応した生活を支援する看護実践ができる。
- ②科学的根拠に基づく看護実践ができる。
- ③地域の健康課題をとらえ、課題解決のための方法を見出し実践できる。

4) 看護者の責務を認識し、他職種と協働する力

- ①社会における看護の役割と責務を理解できる。
- ②他職種の専門性を尊重し、情報交換や問題解決のための連携ができる。

5) 変化を生み出す力

- ①社会の動向や人々のヘルスケアニーズの変化に関心を持つことができる。
- ②新たな健康課題に対応し、主体的・創造的に看護を実践しようとする態度を身につけることができる。
- ③自分の力を信じて挑戦し続けることができる。

6) 国際的活動の基本的能力

- ①世界の様々な国や地域の健康上の課題とその背景を理解できる
- ②異文化や異なる価値観を持つ人を受け入れ、関係を築くことができる
- ③看護専門職として国際貢献に関心を持つことができる

7) 自己研鑽を継続する能力

- ①生涯を通じて、自発的な能力開発を継続しようとする態度を身につける
- ②看護を探究し続けるために、自己の課題を見出すことができる

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにより公表
<https://www.shitennoji.ac.jp/about/policy/>)

(概要)

【看護学部】

(1) 教育課程の編成、教育内容

看護学部のカリキュラム編成においては、ディプロマ・ポリシーで示された卒業時に修得すべき能力を、学生が4年間でバランスよく、確実に修得できるように科目を配置しています。

また、教育の方法は、学生の主体性を引き出し、学生自らが進んで調べて考えるという学ぶ力を身につけることを重視するアクティブ・ラーニングを主体としています。

したがって教員には、アクティブ・ラーニングの理念を理解し、教授方法を修得すること、学習環境を整え、明確な課題と学習目標を設定して学生の学習を支援することが求められています。

- 1) ケアすることの価値について熟考し、自分自身の実践の核となる看護観を構築できるように支援する。
- 2) 教養科目を充実させ、安定した人間性と高い倫理観の醸成や、人間、社会、環境の理解など学際的な知識の理解を支援する。
- 3) 「知識を与えるだけの教育」から「自ら考える力を醸成する教育」への転換を図り、学生自らの気づきや考えを尊重し、学生が意見や考えを自由に表現し、行動に移せるように支援する。
- 4) 健康が人々の生活や文化に密接に関係していること、生活を支援することがどういうことかを深く理解して、生活に着目した看護が実践できるよう講義、演習、実習の繋がりを重視した教育を行う。
- 5) 多様な実習の場を提供し、体験学習を通して、地域におけるケアの重要性を認識できる教育を行う。
- 6) 他職種と連携・協働する重要性とその方法を理解するために、実際の活動を通して実践的に学べるよう支援する。
- 7) グローバルな視野で世界の健康課題を理解できるよう異文化体験、海外研修等の教育内容を提示する。
- 8) 学生が看護学を基盤とした自らのキャリアデザインを描けるように支援する。

(2) 教育方法

- 1) 常に看護とは何かを探究し続け、新たな看護の創造に貢献できる人材を育てます。専門科目において、大学基礎演習（看護基礎ゼミ）、看護と倫理、看護研究法、課題研究、統合実習などの看護について探究し、思考することを学ぶ科目を、学生の学習レベルに応じて段階的に配置します。
- 2) 人を生活者として理解するために、1年次から実習を配置します。2年次・3年次では、病気や健康障害による生活への影響と人々の反応に着目した看護の原理と方法を学ぶ実習科目を配置します。
- 3) 多職種との連携や協働について学び、看護の責務と役割を理解するために、一般教養科目、専門科目における講義、実習を配置します。
- 4) 学習者の主体性を引き出し、自立して行動できる力を育てる教育を行います。講義・演習科目において、アクティブ・ラーニングを推進します。また、看護実践でのあらゆる状況、患者の状態を学習者の学習準備状況に合わせて再現した環境での体験型学習であるシミュレーション教育を行います。

(3) 学修成果の評価方法

教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価する。具体的な評価指標は次の4項目。

- 1) 授業目標への到達度の総合的評価：各科目において、定期試験、小テスト、課題レポート等の提出、授業への参加態度や意欲、学生による授業評価等
- 2) 看護実践力評価：演習科目、実習科目における取り組み、看護師国家試験模試、看護師国家試験

- 3) 半年ごとの自己省察と目標修正・設定（学修ポートフォリオおよび上記 1) 2)をもとに、担任教員またはチューター、実習担当教員と面談を行う）
4) 就職先アンケート、卒業生アンケート

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにより公表
<https://www.shitennoji.ac.jp/about/policy/>）

（概要）

【看護学部】

看護学部は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような能力・資質、目的意識をもった人物を求めます。

- 1) 看護学を学ぶための基礎的能力を有している人
〔求める要素：知識・技能〕
- 2) 人間の生命や尊厳を大切に、他者の苦痛や悩みを理解しようとする人
〔求める要素：思考力・判断力〕
- 3) 学問への真摯な態度を持ち、自ら学ぼうとする人
〔求める要素：関心・意欲・態度〕
- 4) 人間の可能性や柔軟な心を信じ、人間に関心を寄せられる人
〔求める要素：思考力・判断力、知識・技能〕
- 5) 失敗を恐れず、失敗から謙虚に学び、成長しようとする人
〔求める要素：関心・意欲・態度〕
- 6) 看護を通して社会に貢献しようという志を持つ人
〔求める要素：表現力、主体性・多様性・協働性〕

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：公式HPにて公開

<https://www.shitennoji.ac.jp/about/disclosure/information/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	人	—					人
—	2 人	—	2 人	—	2 人	—	2 人
文学部	—	7 人	4 人	文学部	—	7 人	4 人
社会学部	—	10 人	5 人	社会学部	—	10 人	5 人
教育学部	—	20 人	19 人	教育学部	—	20 人	19 人
経営学部	—	7 人	3 人	経営学部	—	7 人	3 人
看護学部	—	7 人	5 人	看護学部	—	7 人	5 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		231 人					231 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：公式 HP にて公表 https://www.shitennoji.ac.jp/faculty/staff/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
令和 6 年度については、以下のような取り組みを主に行った。							
（１）相互授業参観 教職員による「相互授業参観」を実施している。従来は冬学期開講期間に実施していたが、参観対象となる授業に片寄りが生じるとの意見から、今年度は夏学期の開講期間に実施した。原則として実習等の授業を除いて、全専任教員の授業を対象とした。参観については、専任教員だけでなく非常勤講師、事務職員も希望すれば授業を参観できる。参観者は授業担当者にコメントを提出する。また、授業後には合評会が行われ、授業担当教員は、授業を参観した教職員らの意見を聴取し、授業改善に活かしている。							
（２）ファカルティ・ディベロップメント委員によるシラバスチェック 各学科のカリキュラム・ポリシー等に基づくシラバスのチェックを各学科・専攻のファカルティ・ディベロップメント委員に依頼し、実施した。チェック項目は「授業概要」「授業計画」「目標達成のための授業方法」「成績評価の方法」等で、カリキュラム・ポリシーに沿った内容となっているかを確認した。							
（３）学生による授業評価アンケートの実施 学生による授業評価アンケートを夏学期と冬学期の 2 回実施した。評価結果を参考にし、各科目担当教員は授業改善コメントを改善コメント記入欄に入力する。大学全体の集計結果は従来通り公式ホームページに公開し、今年度冬学期より授業ごとの集計結果および改善コメントを学内ホームページに公開した。							
（４）「F D・S D 報告書」の作成 令和 6 年度の F D 活動状況をまとめて「F D・S D 報告書」を作成し、ホームページに公開した。							
（５）「F D（・S D）研修会」の実施 教育職員・事務職員が連携して今後取り組むべき課題を発見し、時代に則した教育を展開できる能力・資質を向上させることを目的とする「F D・S D 研修会」を 1 回、教育職員を研修対象者の中心とした「F D 研修会（動画視聴）」を 1 回開催した。「F D・S D 研修会」は「これからの大学が生き残るには～大学ジャーナリストの現状分析と提言～」と題した講演を開催した。「F D 研修会」は「初年次教育サイト集の利活用について」と題し、初年次教育に関する教員の負担軽減および教育内容の充実を図るため高等教育推進センターで作成した「初年次教育サイト集」の利活用についての解説動画を視聴する方法							

で実施した。

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	190 人	185 人	97%	380 人	299 人	78%	-人	-人
社会学部	230 人	236 人	102%	460 人	435 人	94%	-人	-人
人文社会学部	-人	-人	-%	840 人	694 人	82%	-人	-人
教育学部	260 人	300 人	115%	1020 人	1135 人	111%	10 人	-人
経営学部	160 人	235 人	146%	640 人	767 人	119%	-人	-人
看護学部	100 人	119 人	119%	340 人	395 人	116%	-人	-人
合計	940 人	1075 人	114%	3680 人	3725 人	101%	10 人	-人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人文社会学部	402 人 (100%)	4 人 (1%)	374 人 (93%)	24 人 (6%)
教育学部	270 人 (100%)	5 人 (2%)	262 人 (97%)	3 人 (1%)
経営学部	148 人 (100%)	0 人 (0%)	141 人 (95%)	7 人 (5%)
看護学部	82 人 (100%)	0 人 (0%)	82 人 (100%)	0 人 (0%)
合計	902 人 (100%)	9 人 (1%)	859 人 (95%)	34 人 (4%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
進学先：大阪教育大学大学院、立命館大学大学院				
就職先：文化シヤッター(株)、西日本旅客鉄道(株)、Sky(株)、裁判所事務官一般職、大阪市立総合医療センター				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
------	------	--------------------	------	--------	-----

	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 授業計画(シラバス)作成にあたり、『シラバス作成ガイドライン』を全教員に配布しており、そのガイドラインに基づき、授業概要、到達目標、授業計画、目標達成のための授業方法・履修上の注意事項、授業時間外に必要な学習、成績評価の方法などを明記したシラバス作成を行うよう依頼している。 シラバス作成後には、担当教員以外の第三者による組織的なシラバスチェックのため、ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員によるシラバスの内容チェックを行い、教育の質保証に取り組んでいる。 また、本学は夏学期・冬学期の2学期制で1学期14回授業と定期試験を設けて実施している。年間の授業計画については、学部教授会・教務委員会で検討し、最終的に教育研究評議会決定している。
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 成績評価については、「四天王寺大学履修規程」（令和7年度入学生）「四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部単位の修得及び試験に関する規程」（令和6年度以前入学生）に規定している。また、成績評価方法や成績評価基準を、履修要覧に掲載し学生に明示している。 シラバスには、到達目標に対する達成度を評価する方法・基準を記載し、厳格な成績評価により、適正に単位の授与を行っている。 また、各学科で定められた卒業要件については履修要覧及び公式ホームページで学生へ明示しており、個々の学生が卒業要件を満たしているかを学部教授会で審議したうえで、その結果を教育研究評議会承認し、卒業を認定している。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部 文学部	日本学科	124 単位	㊥・無	半期 24 単位
	国際コミュニケーション学科	124 単位	㊥・無	半期 24 単位
社会学部	社会学科	124 単位	㊥・無	半期 24 単位
	人間副学科	124 単位	㊥・無	半期 24 単位
人文社会学部	日本学科	124 単位	㊥・無	半期 24 単位
	国際キャリア学科	124 単位	㊥・無	半期 24 単位
	社会学科	124 単位	㊥・無	半期 24 単位
	人間福祉学科	124 単位	㊥・無	半期 24 単位
教育学部	教育学科	124 単位	㊥・無	半期 24 単位

経営学部	経営学科	124 単位	㊦・無	半期 24 単位
看護学部	看護学科	126 単位	㊦・無	半期 24 単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)	公式ホームページにて公表 https://www.shitennoji.ac.jp/about/disclosure/gakushu_seika/			
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)	公表方法 :			

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : 公式 HP にて公表 <https://www.shitennoji.ac.jp/about/campusmap/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること
(令和 6 年度以前入学生)

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
文学部	日本学科	837,000 円	300,000 円	320,000 円	施設拡充費・運営維持費
	国際コミュニケーション学科	837,000 円	300,000 円	320,000 円	施設拡充費・運営維持費
社会学部	社会学科	837,000 円	300,000 円	320,000 円	施設拡充費・運営維持費
	人間福祉学科	837,000 円	300,000 円	320,000 円	施設拡充費・運営維持費
教育学部	教育学科	837,000 円	300,000 円	320,000 円	施設拡充費・運営維持費
経営学部	経営学科	837,000 円	300,000 円	320,000 円	施設拡充費・運営維持費
看護学部	看護学科	1,200,000 円	300,000 円	360,000 円	施設拡充費・運営維持費
看護学部 (2 年次以降)	看護学科	1,200,000 円	－円	460,000 円	施設拡充費・運営維持費

(令和 7 年度以降入学生)

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
文学部	日本学科	837,000 円	200,000 円	360,000 円	施設拡充費・運営維持費
	国際コミュニケーション学科	837,000 円	200,000 円	360,000 円	施設拡充費・運営維持費
社会学部	社会学科	837,000 円	200,000 円	360,000 円	施設拡充費・運営維持費
	人間福祉学科	837,000 円	200,000 円	360,000 円	施設拡充費・運営維持費
教育学部	教育学科	857,000 円	200,000 円	360,000 円	施設拡充費・運営維持費
経営学部	経営学科	837,000 円	200,000 円	360,000 円	施設拡充費・運営維持費
看護学部	看護学科	1,220,000 円	200,000 円	400,000 円	施設拡充費・運営維持費
看護学部 (2 年次以降)	看護学科	1,220,000 円	－円	500,000 円	施設拡充費・運営維持費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)
学生サポートフロアを設置し、他人とのコミュニケーションに不安のある学生をサポートする体制を整えている。また学習サポートデスクではリメディアル教員による文書作成サポートをはじめ、基礎教育の支援を行っている。グローバル教育センターである i-Talk にて、海外研修・留学の支援を行っている。また、障害のある学生より申請があれば、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律の一部を改正する法律」(令和 6 年 4 月 1 日施行)に

基づき、他の者と平等に教育を受けるための合理的配慮の提供を行っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組 (概要) キャリアセンターでは、民間企業、公務員、福祉職、保育職、看護職を希望する学生への進路支援を行い、教職教育推進センターでは、教員志望の学生を対象とした進路支援を行っている。キャリア形成支援としては、「キャリア形成支援関連科目」を1年次から3年次まで系統立てて開講し、学生の職業観の醸成を図っている。また、業界や企業、仕事に対する理解を深めることを目的に、インターンシップへの参加を推進するガイダンス等を実施している。進路相談や就職活動の筆記試験対策、および面接対策等のためにリモートまたは、対面での面談を実施し、就職活動がスムーズに進められるよう支援している。さらに、各段階に応じた就職ガイダンスや、選考突破に向けた各種講座を実施し、学生一人ひとりが自信を持って就職活動に臨める環境を整えている。こうした取り組みを通じて、学生の希望に沿った職業選択の実現を目指している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組 (概要) 学生の心身の健康支援は保健センターとそれに併設した学生相談室が担っている。毎年健康診断時の聞き取りに加え、健康診断で異常のあった学生には事後フォローを行い、経過を追っていくとともに、看護師が常駐し、応急処置や緊急時の対応ができる体制を整えている。禁煙や性感染症などの啓発活動も実施し、学生の健康に関する意識を高める取り組みを行っている。 学生相談室は専任臨床心理士・公認心理士が常駐し、学生の精神的な悩みの相談窓口としてカウンセリングを実施し、また人間関係構築が苦手な学生の支援として、居場所づくりに向けたイベントの企画などを行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：HP に公表 (https://shitennojiuniversity.repo.nii.ac.jp/)

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

- ※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。
- ※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F127310108125
学校名（〇〇大学 等）	四天王寺大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人四天王寺学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		655人（ 0 ）人	627人（ 0 ）人	681人（ 0 ）人
内 訳	第Ⅰ区分	422人	381人	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ 0人）	
	第Ⅱ区分	131人	153人	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ 0人）	
	第Ⅲ区分	87人	76人	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ 0人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	15人	17人	
	区分外（多子世帯）	0人	0人	
家計急変による 支援対象者（年間）				－
合計（年間）				681人（ 0 ）人
(備考)				

- ※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。
- ※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	-	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	-	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	17人	人	人
計	27人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	-	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)&及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	-	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)&及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が警告の基準に該当)	-	人	人
GPA等が下位4分の1	73人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意 欲が低い状況	31人	人	人
計	78人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。